



Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery,
Nara Medical University

2018年 Facebookページ投稿記事

<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnarmed/>



2018/01/01 12:24



新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年はさらに個々が各々の強みを生かし、新たに仲間入りしてくれる先生方とともに、医局一丸となって頑張って参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



2018/01/04 20:19



頭頸部外科グループからのお知らせです。
第3回頭頸部手術手技勉強会を下記の日程で開催いたします。

日時：2018年2月2日 金曜日 19:30 開始
場所：奈良県立医科大学 臨床研究棟 1F 大会議室



テーマ：

①耳下腺浅葉切除術のコツとピットフォール

(奈良県立医科大学 西村在 医師)

②耳下腺浅葉切除術のビデオ供覧

(市立奈良病院 金澤成典 医師)

③血管縫合ハンスオン

共催：エチコン

関連病院その他施設、医学生の御参加を歓迎いたします。

参加施設、人数など以下のメールアドレスまでご連絡ください。

Mali: ari.n@naramed-u.ac.jp

奈良県立医科大学附属病院

耳鼻咽喉・頭頸部外科

西村 在



2018/01/12 18:53



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日は新春初の新5回生1週ポリクリのめまい総括をさせていただきました。最近よく思う耳鼻咽喉科の科としてのお薦めポイントは 1. 非常に守備範囲が広く内科系と外科系の両面を持つ科なので、AIの医療系参入によっても絶対衰退しない科である 2. 非常に守備範囲が広く内科系と外科系の両面を持つ科なのに、耳鼻咽喉科専門医試験に合格し更新しさえすればその全部を手掛けられる単純かつ合理的な構造の科である です。寒い日が続きますが風邪などひかれませんよう良い週末をお迎えください。選択ポリクリでのお越しをお待ちしています。



2018/01/12 23:06



ベトナムバックマイ病院より奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科に留学されていたDr.Hieuの送別会、並びに今月よりクリニカルクラークシップで耳鼻科を選択してくれた五年生の歓迎会を行いました。
Hieu先生においては、日本での研修が今後のキャリアに貢献できることを祈念いたします。



2018/01/17 22:28

第3回頭頸部手術手技勉強会に関する追記

日時：2018年2月2日 19:30~

於 奈良県立医科大学 臨床研究棟1F 大会議室

当日のハンズオンセミナーでは血管縫合の基本手技に役立つハンズオンセミナーを用意しています。

具体的には比較的大きな動脈あるいは静脈を想定したドライモデルを用いて実際に縫合糸、手術器械を用いて縫合/吻合の練習をして頂きます。このドライモデルは10セット準備しますので、一人ずつ十分な時間にて体験して頂けます。

医師、医学生だけでなく、看護師さんなどコメディカルの方々もご参加いただけます。お気軽にご連絡ください。

連絡先：

奈良県立医科大学附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

西村 在

mali: ari.n@naramed-u.ac.jp



2018/01/21 9:25



第54回畝火新年総会・平成30年畝火研究会学術講演会が奈良ホテルにて開催されました。学術講演では当科の木村直幹助教と塩崎助教が講演を行ないました。特別講演には秋田大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授の山田武市千代先生にお越しいただき『耳鼻咽喉科領域の難治性疾患の病態』につきご講演いただきました。また、畝火賞は橿原市で開業されている前田先生が受賞されました。最後に奈良医大の外科マスターの称号を付与された当科上村裕和准教授のお祝いの会も開催させていただきました。



2018/01/25 17:46



耳鼻咽喉・頭頸部外科の山下です。本日、明日の2日間、栃木県宇都宮にて第28回日本頭頸部外科学会学術講演会が開催されており、当科からも多数のスタッフが参加しております。そのため、本日は代理で一週ポリクリの総括をさせていただきました。記録的な寒い日が続きますが、奈良の盆地部は雪の影響もほとんどなく、ポリクリメンバーも欠席せずしっかりと症例報告とテーマ発表をしていただけました。木曜日に総括となってしまう五年生にも迷惑をおかけしました。是非とも、BSLで耳鼻咽喉科を選択していただき、8週ないしは4週間の実習で耳鼻咽喉科・頭頸部外科の魅力を味わっていただきたいと思います。



2018/01/26 17:36



2018/1/25—1/26の2日間、第28回日本頭頸部外科学会が宇都宮で開催されました。当科から山中病院教授、上村准教授、太田講師、木村隆浩助教、木村直幹助教、及び西村在医員が大いに発表致しました。今回は屋外は氷点下と極寒ではありましたが、会場内では内視鏡下手術を中心にライブサージェリーもあり、熱い議論が飛び交い、盛り沢山の企画でいつもながら勉強になる学会でした。企画・運営頂いた獨協医科大学の関係者の皆様には深謝申し上げます。



2018/01/27 19:41

第33回 奈良県感染症研究会

日時:平成30年1月27日(土) 14:30~18:05

会場:奈良ホテル 新館「金剛の間」
奈良市高畑町1096 電話 0742-26-3300

共催:奈良県感染症研究会
アステラス製薬株式会社



製品紹介 (14:30~14:40)
「ケンディン系抗真菌薬 ファンガードについて」 アステラス製薬株式会社

開会の辞 (14:40~14:45)
奈良県立医科大学 泌尿器科 教授 藤本 清秀

一般演題① (14:45~15:30)
奈良県立医科大学 健康増進センター センター長 古西 真

1. ムンプスワクチン定期接種化に関するアンケート調査
奈良県総合医療センター 薬剤師 北野 泰斗
2. アメーバ性腸炎の一例 -本邦における過去10年間のアメーバ性腸炎の文献的検討ととも-
奈良県立医科大学 病理科・感染症学講座 教授 長田 敦
3. 首輪虫の感染、診断的難点、結核菌の共存が結核菌の診断を難しくするケース
奈良県立医科大学 泌尿器科 講師 藤本 清秀
4. 本邦で約40年ぶりに発見された Trichobryon schoenitei による菌癬の一例
奈良県総合医療センター 皮膚科 羽倉 健太郎
5. 下咽頭癌に対して化学放射線療法を施行した後に悪化となった鼻咽
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 木村 隆浩
6. フィリピン産腐水から分離されたカルバペネム耐性グラム陰性桿菌の解析
奈良県立医科大学 微生物感染症学講座 矢野 寿一

一般演題② (15:39~16:42)
奈良県立医科大学 病理科・感染症学講座 教授 吉川 正実

7. K. pneumoniae による菌血症ノカクタム酸の一例
天理よつぎ国際病院 呼吸器内科 中西 智子
8. 内科的治療困難な巨大リンパ管腫瘍に対する治療
奈良県立医科大学 消化器外科 岡尾 昌彦
9. 当科における結核以上の肺炎患者の動向について
定義大学医学部奈良病院 呼吸器・アレルギー内科 藤口 博千代
10. ペンタムスチン-リタキマブ療法 療法で治療を失敗した再発性結核リンパ腫の一例
奈良県立医科大学 内科学第二講座 安橋 秀一

11. 当科における梅毒合併症4症例の検討
奈良県立医科大学 産婦人科 木村 隆浩

12. 結石性腎盂腎炎の検討
同院総合病院 泌尿器科 大塚 憲司

13. セイロン胸虫は海外渡航時に注意すべき感染症である—日本人4症例の検討—
奈良県立医科大学 病理科・感染症学講座 平谷 暢典

..... コーヒーブレイク

特別講演 (17:00~18:00)
座長 奈良県立医科大学 泌尿器科 教授 藤本 清秀

「尿路感染症における薬物耐性菌の問題と
性感染症に関する最近の話題について」
三田市民病院 院長 荒川 創一 先生

閉会の辞 (18:00~18:05)
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 学内講師 山下 智範

※15分、追加討論3分以内でお願い致します。
※参加費として1000円徴収させていただきます。
※本会は日曜日の感染症研究会(1月28日)も取得予定です。
※本会はJIC 無償協働講演(20)も取得予定です。
※研究会終了後、意見交換会を予定しております。

PhotoGrid

本日、奈良ホテルにて第33回奈良県感染症研究会が開催されました。当科からは木村隆浩助教が一般演題にて症例報告を行いました。来年度は平成31年2月2日土曜日に奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科が当番幹事になり開催予定です。詳細が決まり次第再度ご連絡させていただきます。

2018/02/03 10:08



昨日、第3回頭頸部手術手技勉強会を奈良県立医科大学 臨床研究棟大会議室で開催いたしました。今回はテーマに耳下腺手術を取り上げさせていただきました。当科西村在医員が後期研修医目線からの耳下腺手術について報告した後、奈良市立病院耳鼻咽喉科の金澤成典先生が耳下腺手術のビデオ供覧を行いました。奈良医大耳鼻咽喉科関連病院医師・前期研修医だけでなく、他大学医局にて頭頸部手術に携わられている先生方にも多数参加いただき活発な討論を行うことができました。最後に血管縫合ハンズオンを行い、夜遅くまでBSLで研修中の5年生も熱心に取り組んでいただきました。



2018/02/05 17:55

第34回耳鼻咽喉科情報処理研究会のお知らせ

第34回耳鼻咽喉科情報処理研究会を下記のとおり開催いたします。
演題申し込みと、多数の方々のご参加をお待ちしております。

会期：平成30年7月14日（土）9時30分より開始予定
会場：興和株式会社 東京支店 日本橋ビル11F 興和ホール
〒103-8433 東京都中央区日本橋本町3-4-14

会場整理費：4,000円

企画：特別講演【領域講習】
「心理・生理データに基づくサウンドデザイン」
演者／中川 誠司先生
(千葉大学フロンティア医工学センター 教授)

演題募集：耳鼻咽喉科領域を中心としたデータベース、画像処理、アナログ情報処理、病院情報処理、電子カルテ、地域連携など多岐にわたる分野の演題を募集します。

演題申込：平成30年2月1日（木）～3月31日（土）
演題名、演者名、所属、連絡先を明記し、800文字以内の抄録をE-mailでお申込ください。各自ご持参のPCかPC動画での発表を原則といたします。
1演題につき発表10分、質疑応答5分を予定しております。

演題申し込み・問い合わせ先
〒634-8522 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室
第34回耳鼻咽喉科情報処理研究会事務局
事務局長 西村忠己
TEL：0744-29-8887 FAX：0744-24-6844
E-mail: entis34@naramed-u.ac.jp

第34回耳鼻咽喉科情報処理研究会
会長 北原 糺

□ 日本耳鼻咽喉科学会専門医単位、耳鼻咽喉科領域講習（1単位）の日本耳鼻咽喉科学会の認定を申請中です。

第34回耳鼻咽喉科情報処理研究会開催にあたって 第34回会長 北原 糺 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 第34回耳鼻咽喉科情報処理研究会を、奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室の担当で開催させていただくことになりました。大変、光栄に存じております。会員の皆様に、心より感謝申し上げます。本研究会は、情報処理技術の研究と応用を通じて、耳鼻咽喉科学とその診療の進歩向上に貢献することを目的として、昭和60年に設立された歴史ある研究会です。特別講演は、千葉大学医工学フロンティアセンター 中川誠司教授にお願いし、「心理・生理データに基づくサウンドデザイン」と題してご講演いただく予定です。ご期待ください。本研究会は例年6月の開催でしたが、今年は会場の都合、他の学会・研究会との兼ね合いもあり、会期を7月14日（土）、会場を東京開催とさせていただきます。詳細は<http://www.entnet.jp/index-j.html>からご覧いただけます。最後になりましたが、多くの先生方のご参加を、教室員一同、心よりお待ちしております。



2018/02/09 18:15



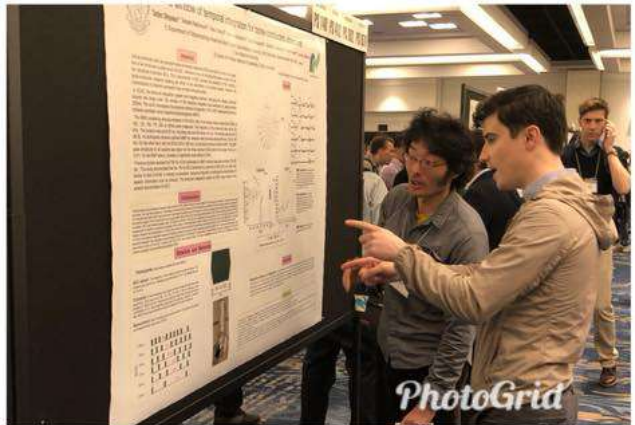
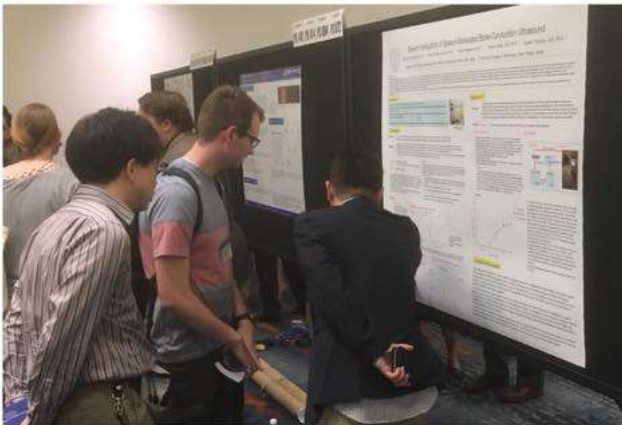
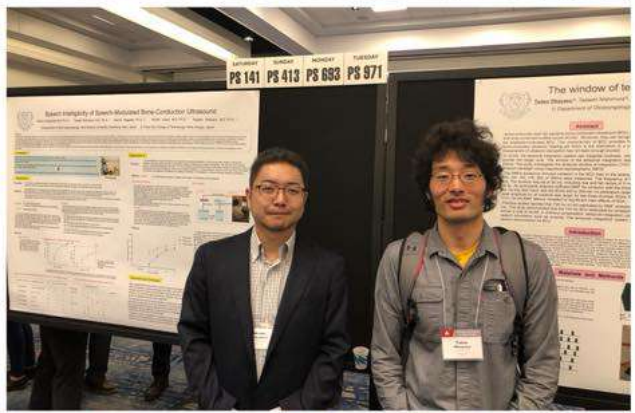
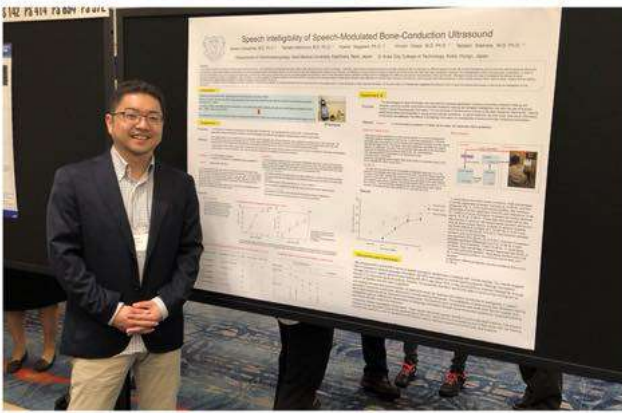
耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は恒例の新5回生1週ポリクリのめまい総括でした。今週から総括のタイトルを「そのめまい患者さん、本当に家に帰して良いですか?」としてみました。脳から来る中枢性めまいと耳から来る末梢性めまいの鑑別診断のポイントは基本的に4つです。安心して救急当直の夜を過ごすための4つのポイント。既に耳鼻科ポリクリを回ったのにこの4つがスラスラ言えない学生さん。是非、選択ポリクリや初期研修で再度お越しいただければ幸いです。

新・専門医研修制度の平成30年度入局の最終採否通知期日が来週に迫りました。奈良医大の耳鼻科は嬉しいことに7名の公募に対して7名が申請してくれました。この勢いで頑張ってください。

明日からの三連休、素敵な休日をお過ごしください。



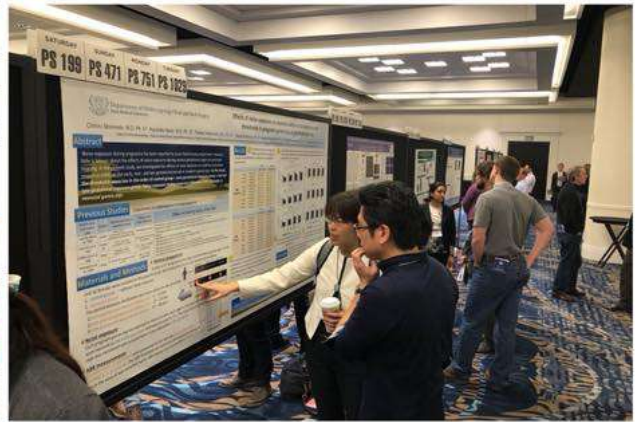
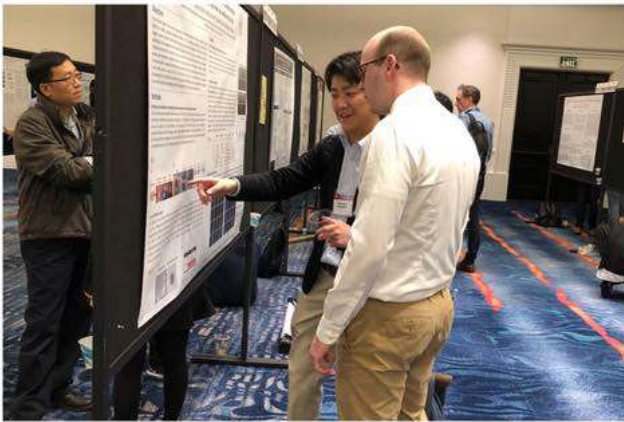
2018/02/11 10:43



Association for research in otolaryngology の 41st Annual MidWinter Meetingが本日から米国San Diegoで始まりました。初日のPoster sessionにて山下学内講師と岡安助教(MEEI留学中)がPresentationsを行いました。どちらも骨導超音波を用いた世界でも珍しい研究内容ですが、多くの海外研究者にも興味をいただきました。



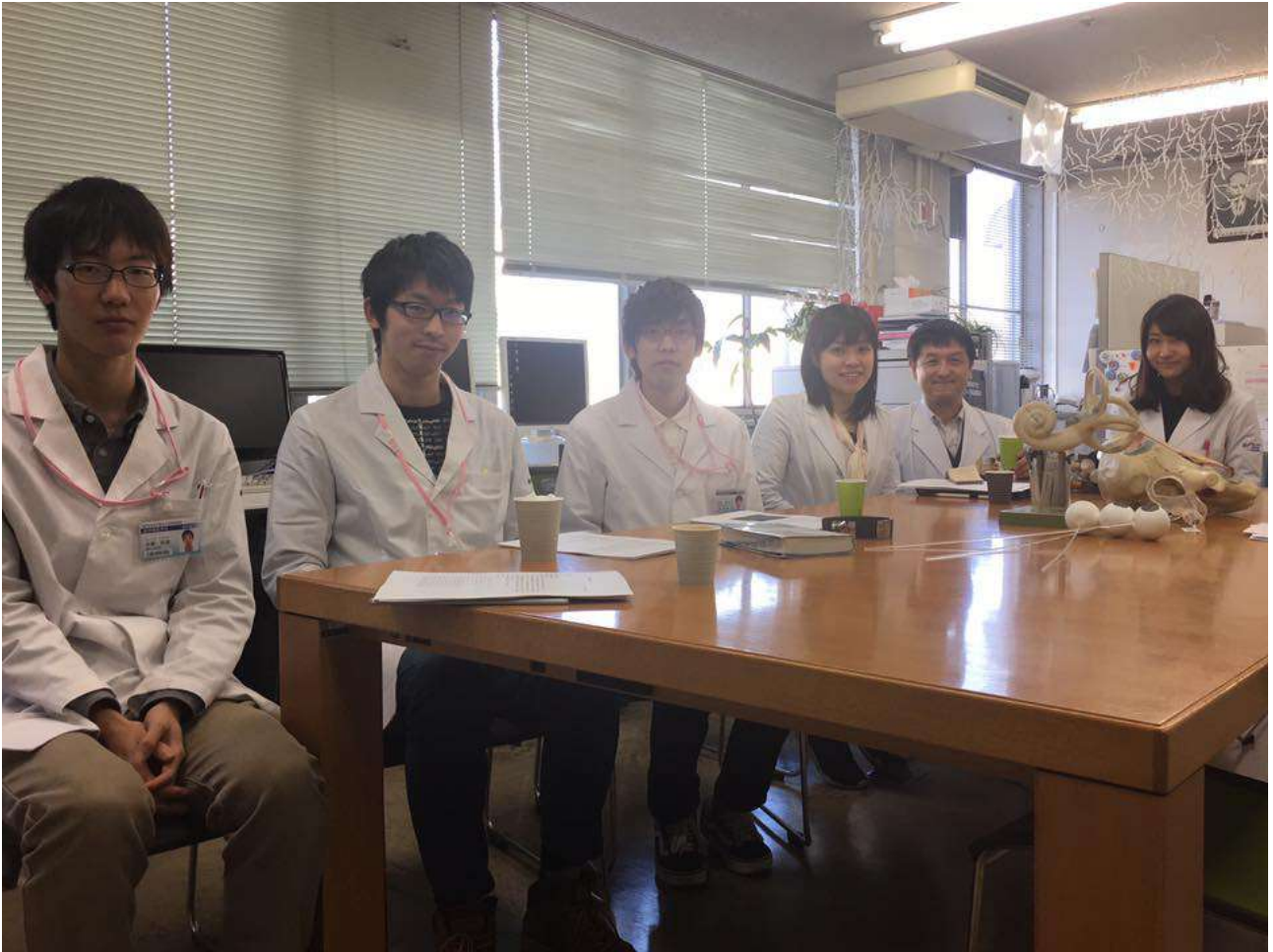
2018/02/14 11:29



ARO poster presentationの最終日が終わりました。奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科教室からの演題五題も多くの海外の研究者にも興味を持っていただけました。また、夜には他大学から米国に留学中の先生方とも交流ができ、有意義な時間を過ごすことができました。明日にて全日程が終了となり帰国の途につきます。



2018/02/23 20:11



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は恒例の新5回生1週ポリクリのめまい総括でした。前回、脳から来る中枢性めまいと耳から来る末梢性めまいのトリアージのポイントは4つ=安心して救急当直の夜を過ごすためのポイントは4つ、と述べました。今回、その回答をお示しします。1.合併症complications、2.随伴症状accompanied symptoms、3.注視眼振と自発眼振の強弱nystagmus suppression、4.眼球回転軸の変化nystagmus axis。これに0.誘発性の有無inducerを加えて5つにしますと、頭文字でi can、私はめまい診療が出来る!!となります。0.めまい疾患統計最多のBPPVは誘発性、1.高血圧、心疾患、糖尿病の合併は要注意、2.蝸牛症状の随伴か他の脳神経症状の随伴か、3.固視抑制が効くか否か、4.中枢からの眼振は容易に軸変化、という解説になります。ちなみにいつもこの大藪論文をベースに喋っております。Ozono-Y, Kitahara-T, Tomiyama-Y, Nishiike-S, Morita-H, Inohara-H: Differential diagnosis of vertigo and dizziness at the emergency department. Acta Otolaryngol 134: 140-145, 2014.

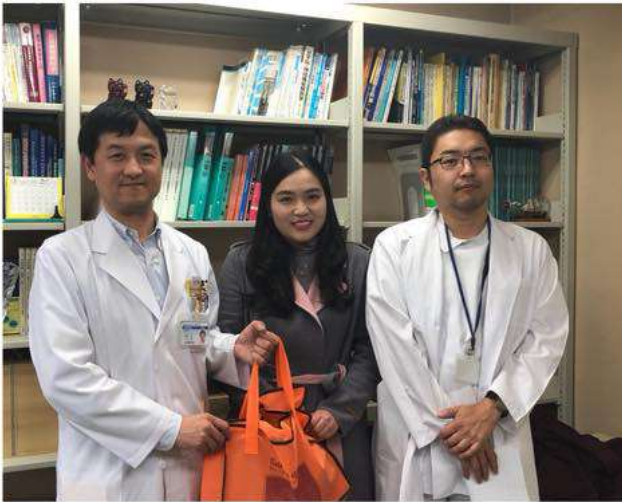


2018/02/23 22:47

いつもありがとうございます。お陰様で今しがた当FBサイトへの「いいね！」が900件となりました。とても嬉しいことです。皆様のご期待にそえるよう頑張って参ります。ちなみに当FBサイト「いいね！」900人目は、自動翻訳機のお蔭でしょうか、台北市のPL様です。応援ありがとうございます。いよいよ次は1000人目となります。



2018/03/01 22:18



本日、ベトナム国バックマイ病院のDr Nguyen Thi Hong Nhungが奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科に留学されるため来日いたしました。早速ですが、ささやかなwelcome partyを開催させていただきました。明日から本格的に研修が始まります。早く日本の生活になじんでいただき、充実した留学生活を送っていただけるように努めていきたいと思ひます。



2018/03/03 7:46

第48回 平衡機能検査技術講習会開催のお知らせ

記

日時:平成30年7月9日(月)正午~13日(金)正午
場所:奈良県立医科大学内 いつかし会館
対象:臨床検査技師、看護師のみならず言語聴覚士、
理学・作業療法士の資格を有する者
申込先:奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
事務局長:山中敏彰
E-mail:koshu48@narmed-u.ac.jp
FAX:0744-24-6844
TEL:0744-29-8887



第48回平衡機能検査技術講習会開催にあたって

担当 北原 紘

奈良県立医科大学

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授

めまいセンター センター長

このたび第48回平衡機能検査技術講習会を、奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室の担当で、奈良医大・いつかし会館において開催させていただくことになりました。大変、光栄に存じております。会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

以下に第48回本講習会の特徴を挙げさせていただきます。

1. 今年から参加対象を、臨床検査技師、看護師のみならず言語聴覚士、理学・作業療法士を含むすべてのパラメディカルの方々に広げました。
2. ベテランめまい専門会員3名(添付写真)、めまいセンター専属言語聴覚士3名、臨床検査技師1名、理学療法士1名という充実したスタッフが中心となって対応させていただきます。
3. お昼休みに当めまいセンターの検査入院システムに関してご紹介させていただきます。
4. 今年の会場である「いつかし会館」は奈良医大隣接ですので、会期内に平衡機能検査の現場を見学することが可能です。
5. テキスト本として「イラストめまいの検査」に加え「めまいを診る」(添付写真)の提供を検討しています。
6. 講習会終了後の週末が「海の日3連休」ですので、奈良県の史跡観光をお楽しみいただけます。
7. 奈良県には宿泊施設が不足していますので、宿泊が必要な方はお早めにご自身で予約いただくか、当方までご相談ください。

定員先着50名、締切4月30日。詳細は添付会告(めまい平衡医学会誌2月号会告)でご覧いただけます。多くのパラメディカルの方々のご参加を、教室員一同、心よりお待ちしております。

2018/03/10 2:25



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は恒例の新5回生1週ポリクリのめまい総括でした。前回、めまい患者さんの眼球回転軸が診察中容易に変化すれば中枢病変を疑え、とアドバイスしました。内耳病変の場合、外側半規管病変なら水平性、前半規管病変なら垂直性、後半規管病変なら回旋性、と半規管病変と眼球回転軸は一対一対応であり、原則定方向性のはずだからです。しかし例外的に、眼球回転軸が診察中に変化する可能性のある内耳疾患があります。良性発作性頭位めまい症です。剥離耳石が外側半規管に迷入すれば水平性眼振が出ますが、診察しているうちに前半規管に移動すれば垂直性眼振に移行する可能性、すなわち内耳病変なのに眼球回転軸が変化する可能性があるわけです。週末はやや肌寒いですが概ね晴れる見込みです。良い週末をお迎えください。



2018/03/15 20:14



本日は奈良県立医科大学および大学院の卒業式でした。当科大学院生であった三上医師も晴れて卒業しました。院生時代には頭頸部癌の研究で立派な成果を報告し学位を授与されました。今後も奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科の研究成果を世界に発信してまいります！



2018/03/22 14:38



本日はUniversity of QueenslandからDr.Joseph Keiをお招きして"Wideband absorbance for identification of conductive conditions in human"をご講演いただきました。the 3rd mobile windowの検出にも応用できるとのことで非常に興味深い内容でした。2枚目前列中央がDr.Keiです。



2018/03/22 18:50



引き続き本日午後には、この4月から奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸外科学の非常勤講師として音声外科の臨床と研究の指導にあたっていただきます、大阪ボイスセンターの望月隆一先生にお越しいただきました。

2018/03/24 9:05



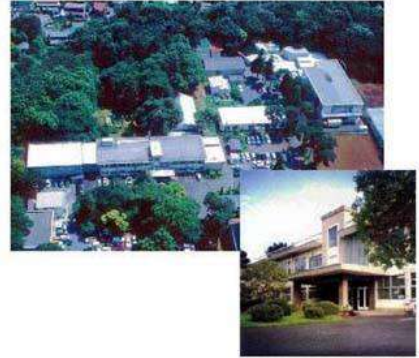
昨日はB8病棟の合同送別会でした。当科からは、奈良医大耳鼻科特に頭頸部外科を中心に臨床・研究を牽引していただきました三上先生、奈良の小児耳鼻咽喉科領域に新しい風を吹き入れるために武者修行にでることになった大塚先生を送別いたしました。70人近くの関係者に参加いただき盛大な会となりました。四月からは後期研修医が五人加わり新しい船出になりますが、今後ともよろしくお願いたします。



2018/03/26 0:04



Kobayasi Institute of Physical Research
一般財団法人 小林理学研究所



Last updated 2018.

[English](#) / [Japanese](#)



今年度も最終週となりましたが来年度に関する話題を一つ。

先日、東京都国分寺市において、奈良県立医科大学・細井裕司学長と小林理学研究所・山本貢平所長の間で大学院協定が締結されました。これにより、4月から奈良医大は小林理研を奈良医大東京キャンパスとし、協力して博士号取得の指導にあたることとなりました。科目名は「医療センシング学」。まずは関東方面の感覚器医学に興味がある先生方が対象になります。



2018/03/31 7:55

時間	制作スケジュール	出演者
12/		
	美術スタッフ 前日セット建て込み	10:00 藤藤真美アナウンサー
12/		10:00 北原礼先生入り
	照明スタッフ入り	10:00 牧迫飛雄馬先生入り
	技術スタッフ入り	10:00 白土修先生入り
8:20	制作スタッフ入り	10:00 黒澤尚先生入り
9:20	技術打ち合わせ	10:00 畑幸彦先生入り
10:00	カメラハ (斎藤アナ・先生込み)	11:30 榎原都恵さん入り
		11:30 大沢あかねさん入り
		11:45 はるな愛さん入り
12:30	照明・セットなおし 休憩	12:00 ガダルカナル・タカさ 中山秀征さん入り
	12:30 ビートたけしさん S 12:45 打ち合わせ	12:30 ビートたけしさん入り
12:50	出演者セット入り	客入れ
13:00		12:30 前説 (ブランドアップ
	#9 放送日:2017年12月26日(火) 放送時間:19:00~22:09 ➡2018年4月3日(火) 19:00-21:48	14:00 遠藤英俊先生入り



on air日程の延期を年末にアナウンスさせていただいておりましたが、このたびようやく決定いたしました。新年度早々4月3日火曜 19:00~21:48 朝日放送「たけしの家庭の医学」奈良医大めまいセンターの取り組み〜つまずき・転倒を予防する30秒トレーニング〜超高齢社会で問題となるつまずき、転倒、骨折、寝たきり、認知症という負のスパイラル。その対策として、足腰の筋力を鍛えることに注目が集まりがち。しかしその大もとには加齢による耳石器平衡障害があり、ある種のトレーニングでその衰えを予防できるのではないかと、いう趣旨です。抗加齢医療に興味のある奈良医大生、奈良医大研修医の皆さん。超高齢社会の中心にも耳鼻咽喉科は存在します。新年度早々盛り上がりまして参りましょう。



2018/03/31 19:03

Thyroid Cancer Network In 中和

日時：2018年 3月31日(土) 16:00~17:15

場所：奈良県立医科大学 厳櫃会館 二階 研修室2
橿原市四条町840

【情報提供】『レンパチニブの最近の話題』
エーザイ株式会社

PROGRAM

総合司会 上村 裕和 先生 (奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 准教授)

【講演】
『分子標的薬時代の甲状腺癌治療戦略』
太田 一郎 先生 (奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 講師)

【総合討論】
《病診連携のタイミングと共有を考える》

Panelist (予定)

- 岡本 新悟 先生 (岡本内科こどもクリニック 奈良県立医科大学 臨床教授)
- 内藤 宏昌 先生 (ないとう耳鼻咽喉科 院長)
- 玉本 哲郎 先生 (奈良県立医科大学 放射線治療・核医学科 医療情報部 病院教授)
- 太田 一郎 先生 (奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 講師)



本日は甲状腺癌の病診連携に関するセミナーを奈良医大の同窓会館で開催しました。最近導入された分子標的薬導入のお話と近隣の先生方と甲状腺癌における病診連携について相互の意見交換ができ、今後の連携がより一層発展して行くものと思います。大学周辺の桜も満開です！良い週末を過ごし下さい。



2018/04/02 19:50



奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座も本日より新年度のスタートをきりました。新しく後期研修医五人が加入してフレッシュな気持ちで臨床、教育、研究に精進して参りたいと思います。



2018/04/06 18:24



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日は新年度最初の5回生1週ポリクリのめまい総括でした。めまい外来で年間に観察される最も頻度の高い眼振はどのような眼振か。最も頻度の高いめまい疾患はBPPVで、そのうち最も頻度の高い型は後半規管型と考えると、回旋性の頭位変換眼振ということになるでしょう。奈良医大めまいセンターの最新のめまい疾患統計では、外来患者さんでは後半規管型BPPVが最多ですが、めまい検査入院する患者さんでは外側半規管型が多いようです。後者の方が難治傾向にありますので、難治性めまいが集まる施設では方向交代性水平性の頭位眼振が多いのかも知れません。本日は生憎の雨天ですが明日明後日と天気は回復傾向です。良い週末をお迎えください。

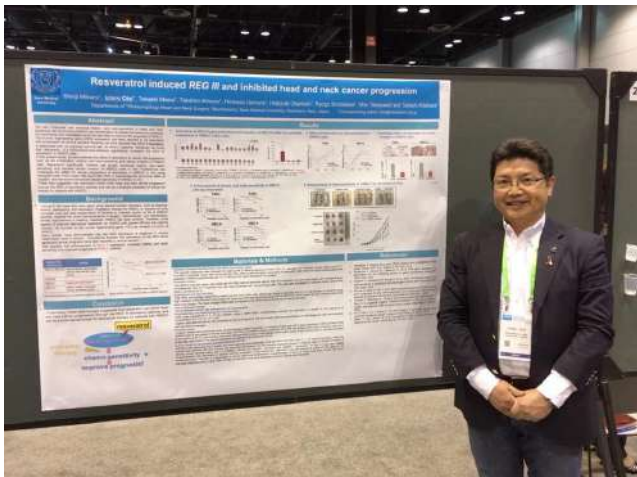
2018/04/20 19:59




耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日は5年生1週ポリクリ、来週はポリクリなしなのでGW前、最後のめまい総括でした。「垂直性眼振を診たら中枢を疑え」というコトワザがあります。確かに、前半規管は矢状面、後半規管は冠状面から45°近く離れているため、純垂直性眼振が内耳から生じることは極めて稀です。しかし、肉眼的に純垂直性なのか回旋性が少し混じっているのか、赤外線フレンチェル下でもなかなか判断の難しいことが多いです。おそらく、内耳性めまいは総数は非常に多いが前半規管由来の垂直成分の強い眼振を示す疾患は極めて少なく、中枢性めまいは総数は少ないが小脳病変から生じる垂直性眼振にはとてもよく出会う、という確率論的なお話なのだろう、と考えます。奈良医大耳鼻科HPもそろそろ衣替えをと思ひまして、本日はHP会社さんとHPに使用する画像・映像のカメラマンさんにおいでいただきました。この衣替えを機に、耳鼻咽喉科の魅力をより多くの皆様により正確にお伝えできれば、と考えております。不規則な生活になり過ぎないように、楽しい週末、そしてGWをお過ごしください。



2018/04/21 21:06



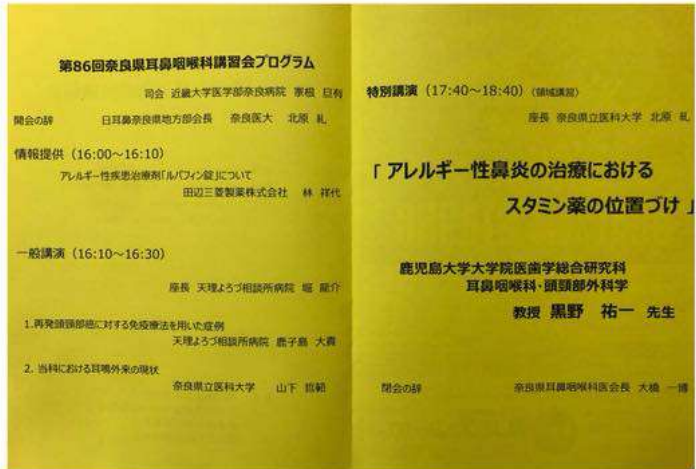


★☆☆2018米国癌学会報告 

2018年4月14-18日、米国癌学会が未だ雪降るシカゴで開催され、当科からは太田講師が発表致しました。
世界最大規模の癌に関する学術集会で、22,000人以上の研究者が参加しています。

現在のトレンドは免疫チェックポイント阻害薬とその周辺研究です。当科でもこの分野には臨床研究を中心に積極的に参画しております。今後も最新の医学情報を提供し現場に反映させていきたいと存じます。

2018/04/21 22:35



本日第86回奈良県耳鼻咽喉科講習会が厳樞会館で開催されました。一般演題では、当科山下学内講師が「当科における耳鳴外来の現状」について講演しました。特別講演には鹿児島大学大学院医学総合研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授の黒野祐一先生をお招きして「アレルギー性鼻炎における抗ヒスタミン薬の位置づけ」についてご講演いただきました。いわゆる春の花粉症はピークを過ぎましたが、まだまだ鼻汁鼻閉に悩んでおられる患者様も多く、明日からの診療にすぐに役立つ内容を拝聴させていただきました。

2018/04/22 8:46

病院の実力「耳・鼻・のどの手術」

医療機関別2016年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	鼓室形成術・アブミ骨手術 (件)	人工内耳手術 (件)	喉頭微細手術・音声機能改善手術 (件)	内視鏡下鼻副鼻腔手術 (件)
大阪府				
関西医大	287	4	103	38
関西電力	242	1	145	16
大阪赤十字	147	0	158	84
大阪大	152	28	100	63
大阪労災	141	3	143	53
大阪急性期・総合医療セ	57	1	223	52
近畿大	202	40	62	23
八尾市立	80	0	139	31
小松	56	0	108	65
りんくう医療セ	45	15	108	51
奈良県				
天理よろづ相談所	105	0	144	44
県立医大	107	9	64	32
近畿大奈良	0	0	51	29
済生会中和	0	0	19	13
和歌山県				
日赤和歌山医療セ	78	4	86	57
県立医大	46	6	28	52

「セ」はセンター。

病院の実力

*奈良編 122

副鼻腔内視鏡で負担減

耳・鼻・のどの手術

鼓膜の奥にある中耳では、三つの骨が連なっている。小骨が音を伝えている。細菌感染などで中耳炎が起ると鼓膜に穴が開き、耳小骨が傷つき、聴力低下を招く。

これに対して、炎症で傷ついた組織を取り除き、鼓膜の穴をふさぎ、耳小骨を再建するのが鼓室形成術で代表的な手術だ。耳小骨の一つで約3割のアブミ骨の再建は、特に高い技術が必要となる。

また、音を電気信号に変える内耳の機能が低下した

今回の「病院の実力」は耳・鼻・のどの手術を取り上げた。一覧表には、耳では「鼓室形成術・アブミ骨手術」と「人工内耳手術」、鼻では「内視鏡下鼻副鼻腔手術」、のどは「喉頭微細手術・音声機能改善手術」の件数を掲載した。

実際の手術は、機器を埋め込んで補うのが人工内耳手術だ。内視鏡下鼻副鼻腔手術は、鼻から入れた内視鏡で患部を見ながら行う。鼻副鼻腔の奥には、骨で囲まれた空洞の器官「副鼻腔」が左右で計8個ある。ここにたまったウミを除去し、腫れた粘膜を削り、空気の通り道を広げるのが手術の目的で、患者の体への負担が小さい手術として広まっている。

全国の調査結果は「安心」の設計画に18日に掲載しました。今回は「関西リママチ」掲載版は5月20日の予定です。

人工内耳 リハビリ必要

帯の枠組みとなる軟骨の形を感知する内耳の蝸牛に電極を直接入れて神経を刺激する。ただし、電子音を言葉として理解するには、言語聴覚士によるリハビリが必要で、環境が整った病院でしか手術ができない。

内視鏡下鼻副鼻腔手術は、善のう症を治療し、多くの病院で実施されている。喉頭微細手術で取り除くボリープは、倍音や歌手、アナウンサーの仕事で声をよく使う人にできやすく、腹式の正しい発声法を習得することで改善につながる。

声帯が動きにくい患者に行う音声機能改善手術は、同病院が力を入れている分野だ。治療実績のある甲狀腺腫瘍の手術の影響で声が出にくくなることもあり、手術を重ねてきた。

同病院では、「難聴外来」や「鼻副鼻腔・アレルギー外来」「音声外来」などの専門外来がある。北原教授は「近年、補聴器を早めにつけるなど難聴を改善すること、認知症予防に役立つという研究が注目されている。まだ聞こえるから大丈夫と思わず、医師の助言を受けてほしい」と話す。

「花粉症でも放置すれば善のうになり、手術に至るケースがある。聞こえにくい、声が出にくいなどの症状があれば、早めに耳鼻咽喉科で診てもらってほしい。早立医大(福原市)の北原立一(耳鼻咽喉・頭頸部外科学教授)は、喉頭微細手術や人工内耳手術といった高度な技術が求められる。北原教授は「早立医大では代々技術を受け継がれ、トレーニングを重ねた医師が手術にあたっている」としている。

内耳の神経に問題がある「感音難聴」は、人工内耳手術が開発されて治療でき

皆様、お早うございます。本日4月22日、日曜の読売新聞朝刊の暮らし欄は「耳鼻咽喉科手術治療」特集のようです。さらに奈良版には、奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学のみみ・はな・のどの疾患に対する手術治療の実績が掲載されております。どうぞご参考にしてください。

2018/04/28 7:27



☆特別講義☆ 平成30年4月27日、耳鼻咽喉・頭頸部外科主催の特別講義として 名古屋大学耳鼻咽喉科学准教授の藤本保志先生をお招きしました。

「頭頸部がん治療～機能温存と根治治療を目指して～」と題して頭頸部外科に対する情熱溢れるメッセージを語って頂きました。頭頸部がんの集学的治療における外科的治療の重要性を再認識致しました。大変感銘を受ける講義でした。藤本先生ありがとうございました。

皆さま、良いゴールデンウィークをお迎え下さい。

2018/05/11 18:11



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日は恒例の5回生1週ポリクリのめまい総括でした。カロリック検査とは片方の外耳道に冷温水もしくは冷温風を入れ、片方の外側半規管を冷やしたり温めたりすることで外側半規管を刺激し、一過性に眼振を誘発させる検査です。すなわち、この検査で眼振が生じ、めまい感が生じれば、外側半規管は元気だ、と結論付けられる訳です。私が研修医の頃、このカロリック検査は、耳鼻科医がめまい患者さんのめまいの原因が内耳ではないと結論付けるための免罪符になっていました。それから四半世紀が過ぎ、BPPVがめまいの原因疾患の中で最多であることがわかり、耳石器機能検査によって耳石器の不具合がわかるようになりました。超高齢社会の到来で、耳石器の老化に由来する加齢性平衡障害が指摘されるようになりました。カロリック検査が正常だからこそBPPVなのでは？と考え直してみることが、原因不明のめまい症を撲滅する上で重要と思われれます。良い週末をお迎えください。



2018/05/12 10:35



昨日B8病棟の合同歓送迎会を行いました。2月より当科に留学されていたベトナム国バックマイ病院の Nhung先生も無事に研修期間を終えられました。3月にB8病棟から異動された峯主任とともに今後のますますのご活躍を祈念申し上げます。B8病棟では、新しく耳鼻咽喉科後期研修医5名を含め総合診療科後期研修医の先生、新人看護師など多数の新規スタッフを迎えております。今後も患者様に寄り添った医療を提供してけるように精進していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2018/05/13 10:38



昨日第27回奈良県耳鼻咽喉科感覚医学講習会が奈良ホテルにて開催されました。特別講演1：名古屋大学・曾根三千彦教授に「MRIによる内リンパ水腫評価」、特別講演2：九州大学・中川尚志教授に「難聴児への医療者としての関わり」をご講演いただきました。奈良県下でも、内耳造影MRIは複数の病院で精力的に行っておりますし、小児難聴診療は課題を抱えながらもシステム作りが確立しつつあります。いずれのご講演も奈良県の耳鼻咽喉科医にとって有意義な内容でした。ご遠方をお運びいただきありがとうございました。



2018/05/19 16:52

頭頸部外科グループからのお知らせです。

第4回頭頸部手術手技勉強会を下記の日程で開催いたします。

日時：2018年6月8日 金曜日 19:00 開始

場所：奈良県立医科大学 臨床研究棟 1F 大会議室（変更になる場合があります）

テーマ：

- ① エナジーデバイスの使用のコツとピットフォール
- ② 手術手技供覧ビデオ
- ③ ハンズオン（検討中）

共催：エチコン

関連病院その他施設、医学生、看護師の御参加を歓迎いたします。

参加施設、人数など以下のメールアドレスまでご連絡ください。

Mail: ari.n@naramed-u.ac.jp

奈良県立医科大学附属病院

耳鼻咽喉・頭頸部外科

西村 在

2018/05/25 18:40



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。今日は恒例の5回生1週ポリクリのめまい総括でした。前回「カロリック検査が正常だからこそBPPVなのでは？」と考え直してみることが原因不明のめまい症を撲滅する上で重要」と述べました。つまり「カロリック検査が正常だからこそ三半規管に迷入した剥離耳石の動きを感知してめまいが生じる」という意味です。世界最多のめまい疾患であるBPPV。「朝トイレに起き上がるとき一過性にグルグル回った」などという誰もがBPPVとわかるような問診ばかりとは限りません。以下にひょっとするとBPPVでは？と匂わせるポイントを記してみます。1. 高齢者。2. 女性。3. 10年来ふわふわ感が持続。4. ふわふわ感は動くと増悪じっとしていると軽減。5. ふわふわ感は日によって強い弱いがある。6. 自転車に乗っているとまし。7. どの医療機関に行っても検査正常、原因不明と言われる。8. 今までの人生で頭部を強く打撲したことがある。9. 骨粗鬆症で治療している。おかしな言い方も知れませんが、めまい疾患統計上でBPPVは大概50%に近い非常に高い割合を占めますが、原因不明のめまい症はせいぜい10-15%程度です。めまい患者さんを診察して「原因がわからん」とつぶやきたくなったら「BPPVかも」とつぶやいた方が確率論的に3倍以上賢いと言えるかも知れません。この週末は暑くなるこのことですが、安全で楽しい週末をお過ごしください。



2018/05/28 14:54



平成30年5月27日曜日、第4回敵火会ゴルフコンペが春日台カントリークラブで開催されました。昨年同様、晴れ男の細井裕司理事長兼学長にもご参加いただき、絶好のゴルフ日和となりました。結果は上田隆志先生の初優勝、シニアの部は乾修先生の連覇となりました。女子の部では今年初参加の松村八千代先生を抑え、伊藤妙子先生が優勝に返り咲きました。今年も木村隆浩先生、北野公一先生といった若手が参加してくれました。来年も是非、若い世代の先生方に参加していただきたく思います。



2018/06/02 11:27





平成30年5月30日から6月2日、パシフィコ横浜にて第119回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会が開催されています。当教室からも多くの医局員が参加、発表しています！さらに次代を担う研修医の先生方も一緒に参加して頂き、耳鼻咽喉科の魅力を昼夜問わず感じて頂いています。初日の夜には同門の先生方とも懇親を持たせて頂きました。主催校の東京大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の関係者の皆様にお礼申し上げます。

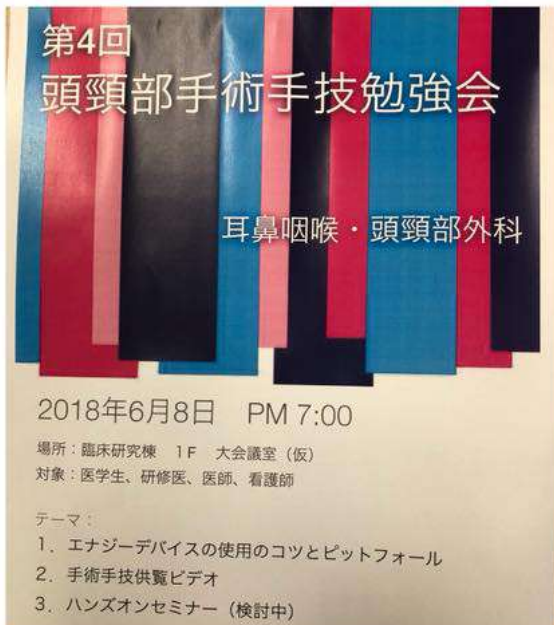
2018/06/08 17:49



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日は恒例の5回生1週ポリクリのめまい総括でした。前回「めまい疾患統計上BPPVはおよそ50%であり、原因不明のめまい症はせいぜい10-15%だから、めまい患者さんを前にして「原因がわからん」とつぶやくより「BPPVかも知れない」とつぶやいた方が確率論的に3倍以上賢い。」と述べました。さらに当めまいセンターの最新統計では、60歳以上の女性めまい患者さんの約70%がBPPVで、原因不明のめまい症は約15%であることがわかりました。そうすると「60歳以上の女性めまい患者さんを前にして「原因がわからん」とつぶやくより「BPPVかも知れない」とつぶやいた方が確率論的に4-5倍も賢い。」ということになります。もっと言えば、問診や眼振で確定診断できなかったBPPV患者さんは、原因不明のめまい症に分類されてしまっている可能性もありますので、上述の疾患統計の「原因不明のめまい症」の大半が実は「BPPV」である可能性も否定できません。耳鼻科医は、このようなBPPVと診断しきれないBPPVに、どのように対処すれば良いか。次回のめまい総括では、当めまいセンターからその対処法について提案したいと思います。梅雨入りして蒸し暑い週末になりそうですが、健康に気を付けて素敵な週末をお過ごしください。



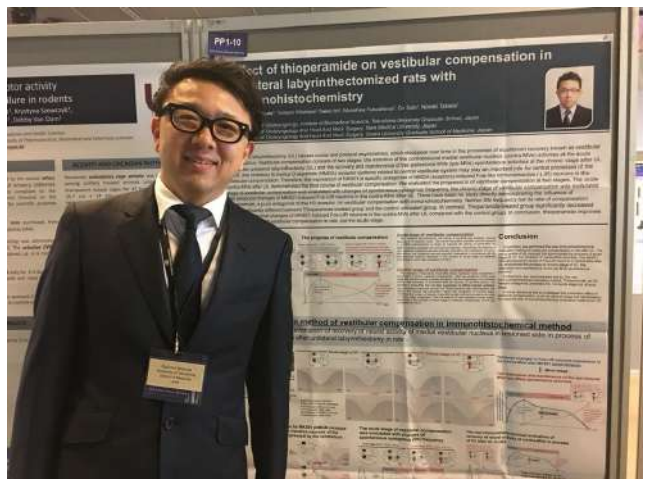
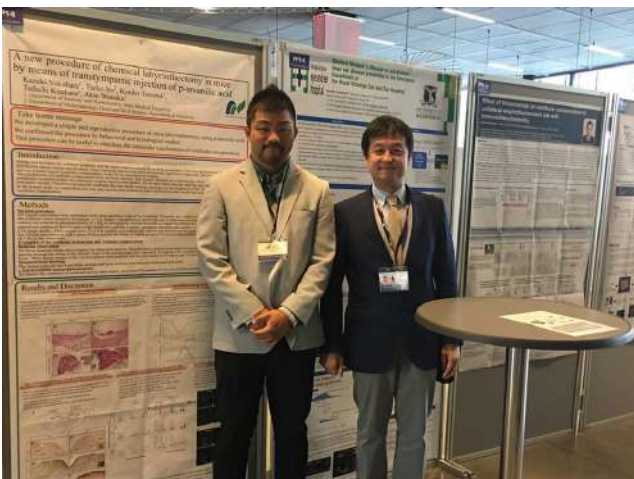
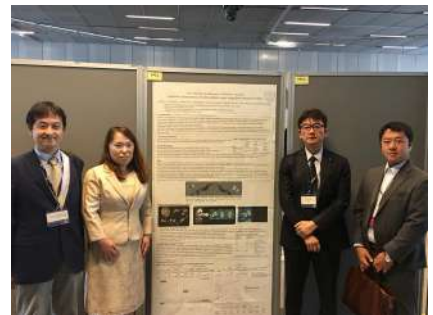
2018/06/08 22:39



本日、第4回頭頸部手術手技勉強会を開催しました。エナジーデバイス使用のコツとピットホールについて、上村准教授と木村隆浩助教から手術ビデオを供覧しながら説明がありました。また、最後にハーモニックを用いたハンズオンを行いました。関連病院や他大学の先生方、今回は耳鼻科病棟や中央手術部の看護師にも多数ご参加いただきました。



2018/06/13 8:02





第30回国際バラニー学会がめまい平衡医学の聖地、スウェーデン王国ウプサラで開催されました。奈良医大から内耳造影MRI2題、前庭代償2題を発表しました。2年毎に開催されるこの学会はマドリード、上海を経て、2024年に再びウプサラに戻って来ます。

2018/06/16 8:07



2018年6月14-15日、東京京王プラザホテルで第42回日本頭頸部癌学会が開催されました。

当科からは腫瘍グループ関連病院を含め7名のメンバーが参加・発表しました！日本の頭頸部がんと戦う仲間と昼夜を問わず大いに交流しました。また明日からの診療・研究活動に反映していきたいと思います！

さらに毎年学会前日(6/13)に行われる恒例の頭頸部癌基礎研究会も第12回を迎え、150名を超える参加者で盛会に終わりました。その後の懇親会も大いに盛り上がりました。事務局担当の太田講師もホッとひと息です。FBも作成されますのでこちらもお覧ください。

主催者の国立がん研究センター東病院の先生方、スタッフの皆様には御礼申し上げます。

では、良い週末を！



2018/06/20 21:41



奈良県立医科大学 **ORL-HNS**
耳鼻咽喉・頭頸部外科

2018.7.20
医局説明会 19:30~
@医局(3F)

懇親会 20:00~

対象:研修医・医学生
連絡先:医局 9:00-17:00
(内線 3435)



済生会中和病院

(A:年間手術 200 症例強、悪性腫瘍以外の分野を網羅、急性疾患の取り扱い多数)
指導管理責任者:福田 多介彦
指導医:赤坂 咲恵

大和高田市立病院

(A:年間手術 300 症例強、悪性腫瘍以外の分野を網羅、急性疾患の取り扱い多数)
指導管理責任者:小山 真司

日生病院

(A:年間手術 400 症例強、すべての分野にバランスの取れた施設)
指導管理責任者:藤田 信哉
指導医:小泉 敏三
指導医:榎野 研二

ベルランド総合病院

(A:年間手術 400 症例強、すべての分野にバランスの取れた施設)
指導管理責任者:中江 進
指導医:三上 慎司

近畿大学奈良病院

(A:年間手術 400 症例強、すべての分野にバランスの取れた施設)
指導管理責任者:家根 且有
指導医:清水 直樹
指導医:中井 義紀

大阪国際がんセンター

(A:年間手術 700 症例強、悪性腫瘍に特化した専門性の高い施設)
指導管理責任者:藤井 隆
指導医:喜井 正士
指導医:喜在 信治

募集定員:7名

難波、京都、名古屋とアクセス良好であり、周辺都市からも積極的に募集している

研修開始時期と期間

平成 31 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

各関連研修施設の研修時期は後期研修医(専攻医)によって適宜変更を行う

平成 31 年度 奈良医大地方病院 耳鼻咽喉科 専門研修プログラム

プログラムの名称

平成 31 年度 奈良医大地方病院 耳鼻咽喉科 専門研修プログラム

プログラムの目的

耳鼻咽喉科医師としての人格と涵養に努め、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の全ての領域において幅広い臨床能力を習得し、「国民に良質で安心な標準的医療を提供できる」専門医を育てることを目標とする。
難波、京都、名古屋とアクセス良好であり、周辺都市からも積極的に募集している。

プログラム指導医と専門領域

基幹研修施設

奈良県立医科大学附属病院

(基幹:年間手術 900 症例以上)

プログラム責任者:北原 礼(診療科長)(耳)

指導管理責任者:北原 礼(診療科長)(耳)

指導医:山中 敏彰(病院教授)(耳)

上村 裕和(手術部)(口腔咽喉頭、頭頸部)

太田 一郎(医局長)(口腔咽喉頭、頭頸部)

西村 忠己(外来医長)(耳)

山下 晋範(病棟医長)(耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭)

関連研修施設(A グループ:地域中核病院)

奈良県総合医療センター

(A:年間手術 500 症例強、すべての分野にバランスの取れた施設)

指導管理責任者:成尾 一彦

指導医:坂上 剛

指導医:堀中 昭良

奈良県西和総合医療センター

(A:年間手術 150 症例強、悪性腫瘍以外の分野を網羅、急性疾患の取り扱い多数)

指導管理責任者:金田 宏和

市立奈良病院

(A:年間手術 300 症例強、すべての分野にバランスの取れた施設)

指導管理責任者:岡本 英之

指導医:金澤 成典

応募方法

応募資格:

日本国の医師免許証を有する

臨床研修修了登録証を有する

応募期間:

平成 31 年 7 月 1 日～平成 31 年 12 月 28 日

選考方法:

書類審査および面接により選考する

面接の日時・場所は別途通知します

応募書類:

履歴書、履歴書、医師免許証の写し、臨床研修修了証の写し

問い合わせ先および提出先:

〒634-8522 奈良県橿原市四条町 840

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学

電話:0744-22-3051 FAX:0744-24-6844 E-mail:yisizuka@naramed-u.ac.jp

URL:http://www.naramed-u.ac.jp/~oto/

プログラムの概要

基幹研修施設である奈良県立医科大学附属病院に続き、関連研修施設である奈良県総合医療センター、奈良県西和医療センター、市立奈良病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、日生病院、ベルランド総合病院、近畿大学奈良病院、大阪国際がんセンターのうち1つ～2つの施設を、それぞれの特徴を活かした耳鼻咽喉科研修を行い、耳鼻咽喉科到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験する。また、プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに専攻医、指導医、プログラム責任者で実施し、4 年間の研修修了時にはすべての領域ごとの研修到達目標を達成する。さらに、4 年間の研修中、認定されている学会での発表を筆頭著者として最低 4 回は行う。また、学術雑誌への論文執筆・公表を筆頭著者として最低 1 編は行う。研修の評価や経験症例は耳鼻が定めた方法で登録する。





研修カリキュラム

基幹研修施設

奈良県立医科大学附属病院

一般目標:耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および姿勢を身に付けるために、代表的な疾患や主要症候に対して対処するための知識、技能、態度および臨床問題解決法の習得と人間性の向上に努める。

行動目標:日耳鼻の定めた研修到達目標、症例経験基準に準ずる。

基本姿勢・態度

基本的知識

基本的診断法

経験すべき治療など

経験すべき検査

研修内容:後期研修医(専攻医)は外来では患者問診、診察補助につく。

病棟では主治医として患者管理を行い、術中は執刀もしくは助手として治療にあたる。毎週月曜 16:00 から総回診、18:00 から術前カンファレンス、火曜・木曜の術後回診に参加する。

毎週火曜 7:45 からモーニング・セミナーとして、解剖生理、疾患病態のクイズ、論文抄読会、耳鼻咽喉科各分野トピックス紹介を行う。

医療倫理、医療安全、感染症対策に関する講習会は定期的に必ず受講する。

年次毎の到達目標概要

[後期研修 1 年目]

耳鼻咽喉科医としての基本的な知識・技術を修得するための後期研修終了後の専門医試験合格を目指す医師に対して役立つような内容とする。耳鼻咽喉科ではまず、ヒトの五感のうち主として聴覚、嗅覚、味覚を扱い、とくにコミュニケーション障害を扱う感覚器外科として研修してもらう事が可能である。さらに、頭頸部悪性腫瘍という生死に關わる疾患を経験することも可能である。医師として基本的な心構えは勿論のこと、耳鼻咽喉科の内容は上記のごとく多岐に渡るため、耳鼻咽喉科全体の基礎研修後に耳鼻咽喉頭、頭頸部腫瘍、救急などのグループに分かれて順次全てを研修してもらう。大学病院および関連研修病院において、下記あるいは下記に準じた研修を行ってもらう予定である。

- 1) 耳鼻咽喉科基本事項についてのクイズを受講する。
- 2) 入院患者の主治医を実際に受け持つことで、各疾患の診察、診断、手術手技をスタッフの直接指導の下で研修する。また週 1 回の回診に参加することで、受け持ち以外の疾患についての理解を深める。

3) 外来診察の補助にも週に数度、積極的に参加してもらい、耳鼻咽喉科医として実際に必要な知識、技術、態度を習得してもらう。

4) 基本的な症例から教育的症例についてのカンファレンスをスタッフとともに行う。研修医自らプレゼンテーションを行ってもらい、各疾患の理解を深めるとともに第三者に症例の詳細を正確に伝える訓練をもらう。

[後期研修 2-4 年目]

■外来診療における一般目標:

耳鼻咽喉科領域の外来患者診療を以下の諸点に留意して適切に実施する能力を養う。

1) 必要な症候学の知識に精通し、適切な問診がとれる能力を有すると共に、患者心理を理解して問診する態度を身につける(患者の受け入れ、問診)。

2) 外来で行い得る検査方法や検査機器を理解し、必要にして十分な検査を行い得る能力を持つ(診断、検査)。

3) 問診、症状、所見による診断ならびに鑑別診断を行う能力を持つ(鑑別診断)。

4) 疾患の内容、程度を把握し、適切な専門的治療を行う能力を持つ(治療)。

5) 必要な知識を理解し、他の医療従事者と協力して問題を解決する能力を養う(ハビリテーション、リハビリテーション)。

6) 救急疾患、外来診療に伴う偶発症に対する診断能力、処理能力を身につける(救急、偶発症)。

■入院診療における一般目標:

主治医として耳鼻咽喉科領域の基本的臨床能力を持ち、入院患者に対して全身、局所管理を適切に実施できる。

■検査における一般目標:

耳鼻咽喉科領域の専門的検査の適応にしたがって、それを指示(依頼)あるいは実施し、結果を判定評価して、問題解決のために利用する。

以下に示す耳鼻咽喉科領域における基本的検査法の原理と方法を理解し、適応を定めて実施し、結果判定を評価する力を養う。

純音・語音聴力検査、ティンパノメトリー、アブミ骨筋反射、特殊聴力検査、聴性脳幹反応、構音図、OAE 検査、耳管機能検査、幼児聴力検査、平衡機能検査、ENG 検査、後述路機能検査、重心動揺検査、前庭・眼・頭反射、鼻汁細胞診、鼻腔通気度検査、アレルギー皮内反応、睡眠脳波検査、電気嗅覚検査、ファイバースコープ、音声言語検査、喉頭ストロボスコープ、音響分析、頸部 CT・MRI・超音波診断など。

■手術における一般目標:

耳鼻咽喉科領域の基本的手術に関する意義、原理を理解し、適応を定め、手術手技を習得し、手術前後の管理ができる。

以下に示す耳鼻咽喉科領域における基本的手術の原理と術式を理解し、適応を定めて指導医の下で自ら実施あるいは助手を務め、術後管理を行う力を養う。

下甲介切除術、鼻茸切除術、鼻中隔矯正術、鼻出血止血術、鼻骨骨折整復術、眼窩底軟骨骨折整復術、上顎洞篩骨洞根治術、内視鏡的鼻副鼻腔手術、鼻鏡摘出術、アデノイド切除術、ワリゴマイクログ、気管切開術、首外科学術、咽頭・食道異物摘出術、気管・気管支異物摘出術、唾液腺良性腫瘍摘出術、唾石摘出術、甲状腺良性腫瘍摘出術、頸部神経痛、中心静脈カテーテル留置術、鼓室換気チューブ挿入術、耳聾孔摘出術、乳突閉鎖術、鼓室形成術、アブミ骨手術、顔面神経減荷術、内リンパ囊開放術、人工内耳手術など。

年次毎の到達目標詳細

1. 基本姿勢、態度、知識

研修年度		1	2	3	4
	基本姿勢・態度				
1	患者、家族のニーズを把握できる。	○	○	○	○
2	インフォームドコンセントが行える。	○	○	○	○
3	守秘義務を理解し、実行できる。	○	○	○	○
4	他科と適切に連携できる。	○	○	○	○
5	他の医療従事者と適切な関係を構築できる。	○	○	○	○
6	後進の指導ができる。	○	○	○	○
7	科学的根拠となる情報を収集し、それを適応できる。	○	○	○	○
8	研究や学会活動を行う。	○	○	○	○
9	科学的思考、課題解決学習、生涯学習の姿勢を身につける。	○	○	○	○
10	医療事故防止および自己への対応を理解する。	○	○	○	○
11	インシデントリポートを理解し、記載できる。	○	○	○	○
12	症例提示と討論ができる。	○	○	○	○
13	学術集会に積極的に参加する。	○	○	○	○
14	医事法則、保健医療法規・制度を理解する。	○	○	○	○
15	医療福祉制度、医療保険・公費負担制度を理解する。	○	○	○	○
16	医の倫理・生命倫理について理解し、行動する。	○	○	○	○
17	感染対策を理解し、実行できる。	○	○	○	○
18	医薬品などによる健康被害の防止について理解する。	○	○	○	○
19	医療連携の重要性とその制度を理解する。	○	○	○	○
20	医療経済について理解し、それに基づく診療実践ができる。	○	○	○	○
21	地域医療の理解と診療実践ができる(病診、病病連携、地域包 括ケア、在宅医療、地方での医療経験)。	○	○	○	○

耳				
22	顎関節の解剖を理解できる。	○	○	○
23	聴覚路、前庭系伝導路、顔面神経の走行を理解する。	○	○	○
24	外耳・中耳・内耳の機能について理解する。	○	○	○
25	中耳表の病態を理解する。	○	○	○
26	顔面の病態を理解する。	○	○	○
27	めまい・平衡障害の病態を理解する。	○	○	○
28	顔面神経麻痺の病態を理解する。	○	○	○
29	外耳・鼓膜の所見を評価できる。	○	○	○
30	聴覚検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○
31	平衡機能検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○
32	耳管機能検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○
33	側頭およびその周辺の側像 (CT、MRI) 所見を評価できる。	○	○	○
34	人工内耳の仕組みと言語聴覚訓練を理解する。	○	○	○
35	聴覚障害の診断ができる。	○	○	○
36	めまい・平衡障害の診断ができる。	○	○	○
37	顔面神経麻痺の患者の治療と管理ができる。	○	○	○
38	聴覚障害者の治療・補聴器指導ができる。	○	○	○
39	めまい・平衡障害患者の治療、リハビリテーションができる。	○	○	○
40	鼓室形成術の助手が務められる。	○	○	○
41	アブミ骨手術の助手が務められる。	○	○	○
42	人工内耳手術の助手が務められる。	○	○	○
43	耳科手術の合併症、副損傷を理解し、術後管理ができる。	○	○	○
鼻・副鼻腔				
44	鼻・副鼻腔の解剖を理解する。	○	○	○
45	鼻・副鼻腔の機能を理解する。	○	○	○
46	鼻・副鼻腔表の病態を理解する。	○	○	○
47	アレルギー性鼻炎の病態を理解する。	○	○	○
48	嗅覚障害の病態を理解する。	○	○	○
49	鼻・副鼻腔腫瘍の病態を理解する。	○	○	○
50	側頭・両側鼻、アレルギー検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○
51	鼻副鼻腔内視鏡検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○
52	嗅覚検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○
53	鼻副鼻腔通気度検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○
54	鼻・副鼻腔の側像 (CT、MRI) 所見を評価できる。	○	○	○



55	鼻・副鼻腔炎の診断ができる。	○	○	○	○
56	アレルギー性鼻炎の診断ができる。	○	○	○	○
57	鼻・副鼻腔腫瘍の診断ができる。	○	○	○	○
58	顔面外傷の診断ができる。	○	○	○	○
59	鼻中隔矯正術、下鼻甲介手術が行える。	○	○	○	○
60	鼻息肉除去術、鼻中隔手術、上顎洞手術などの副鼻腔手術が行える。	○	○	○	○
61	鼻・副鼻腔腫瘍手術の助手が務められる。	○	○	○	○
62	鼻出血の止血ができる。	○	○	○	○
63	鼻科手術の合併症、副損傷を理解し、術後管理ができる。	○	○	○	○
64	鼻骨骨折、眼窩壁骨折などの外科治療ができる。	○	○	○	○
口経咽頭鏡					
65	口腔、咽頭、唾液腺の解剖を理解する。	○			
66	喉頭、気管、食道の解剖を理解する。	○			
67	扁桃の機能について理解する。	○			
68	摂食・咀嚼、嚥下の生理を理解する。	○			
69	呼吸、発声、発語の生理を理解する。	○			
70	味覚障害の病態を理解する。	○			
71	扁桃前炎感染の病態を理解する。	○			
72	嚥下時呼吸障害の病態を理解する。	○			
73	摂食・咀嚼・嚥下障害の病態を理解する。	○			
74	発声・発語障害の病態を理解する。	○			
75	呼吸困難の病態を理解する。	○			
76	味覚検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
77	嚥下時呼吸検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
78	嚥下時呼吸検査の結果を評価できる。	○	○	○	○
79	嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
80	喉頭ストロボスコプ検査、音声録音検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
81	口蓋隆起切除術、アデノイド切除術ができる。	○	○	○	○
82	咽頭異物の摘出ができる。	○	○	○	○
83	嚥下時呼吸障害の治療方針が立てられる。	○	○	○	○
84	嚥下障害に対するリハビリテーションや各科治療の適応を判断できる。	○	○	○	○
85	音声障害に対するリハビリテーションや各科治療の適応を判断できる。	○	○	○	○
86	喉頭鏡手術を行うことができる。	○	○	○	○
87	緊急気道確保の適応を判断し、対応できる。	○	○	○	○
88	気管切開術とその術後管理ができる。	○	○	○	○

頭頸部腫瘍					
89	頭頸部の解剖を理解する。	○			
90	頭頸部の生理を理解する。	○			
91	頭頸部の先天性および感染性疾患の病態を理解する。	○			
92	頭頸部の先天性疾患の病態を理解する。	○			
93	頭頸部の良性疾患の病態を理解する。	○			
94	頭頸部の悪性腫瘍の病態を理解する。	○			
95	頭頸部の身体所見を評価できる。	○	○	○	○
96	頭頸部疾患に内視鏡検査を実施し、その結果を評価できる。	○	○	○	○
97	頭頸部疾患に対する病理検査の適応を理解し、その結果を評価できる。	○	○	○	○
98	頭頸部疾患に対する画像検査の適応を理解し、その結果を評価できる。	○	○	○	○
99	頭頸部疾患に病理学的検査を行い、その結果を評価できる。	○	○	○	○
100	頭頸部悪性腫瘍の TNM 分類を判断できる。	○	○	○	○
101	頭頸部悪性腫瘍に対する手術療法を含め、適切な治療法の選択ができる。	○	○	○	○
102	頸部腫瘍の切除術ができる。	○	○	○	○
103	良性の頭頸部腫瘍摘出（リンパ節生検を含む）ができる。	○	○	○	○
104	早期頭頸部癌に対する手術ができる。	○	○	○	○
105	進行頭頸部癌に対する手術（頸部腫瘍を含む）の助手が務められる。	○	○	○	○
106	頭頸部癌の術後管理ができる。	○	○	○	○
107	頭頸部癌に対する放射線治療の適応を判断できる。	○	○	○	○
108	頭頸部癌に対する化学療法の適応を理解し、施行できる。	○	○	○	○
109	頭頸部癌に対する支持療法（栄養療法）の必要性を理解し、施行できる。	○	○	○	○
110	頭頸部癌治療後の後遺症を理解し対応できる。	○	○	○	○

2. 症例記録

(1) 疾患の管理経歴：主治医あるいは担当医として経験する。

	基準症例数	研修年度			
		1	2	3	4
難聴・中耳炎	25 例以上	10	5	5	5
めまい・平衡障害	20 例以上	6	5	5	5
顔面神経麻痺	5 例以上	2	1	1	1
アレルギー性鼻炎	10 例以上	2	3	3	2
副鼻腔炎	10 例以上	5	5		
外傷、鼻出血	10 例以上	2	3	3	2

扁桃炎	10 例以上	2	3	3	2
嚥下障害	10 例以上	4	2	2	2
口腔、咽頭腫瘍	10 例以上	4	4	2	
喉頭腫瘍	10 例以上	4	4	2	
音声・言語障害	10 例以上	4	2	2	2
呼吸障害	10 例以上	2	3	3	2
頭頸部良性腫瘍	10 例以上	2	4	4	
頭頸部悪性腫瘍	30 例以上	10	5	5	
リハビリテーション（聴覚、めまい、平衡障害、嚥下、呼吸、発声、発語）	10 例以上	6	3	2	
緩和医療	5 例以上	2	1	1	1

(2) 基本的手術手技の経験：術者あるいは助手として経験する（(1)との重複は可能）。

耳科手術	20 例以上	鼓室形成術、人工内耳、アブミ非手術、面神経高感度術	15	2	2	1	
鼻科手術	40 例以上	内視鏡下鼻副鼻腔手術	5	15	15	5	
口経咽頭鏡手術	40 例以上	扁桃摘出術	15 例以上	3	10	2	
		舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術等	5 例以上	2	3		
		喉頭鏡手術	15 例以上	5	5	3	2
		嚥下機能改善、閉鎖防止、音声機能改善手術	5 例以上	4	1		
頭頸部腫瘍手術	30 例以上	頸部切除術	10 例以上	5	3	2	
		頭頸部腫瘍摘出術（唾液腺、喉頭、頭頸部腫瘍等）	20 例以上	5	5	5	5

(3) 個々の手術経験：術者として経験する（(1)、(2)との重複は可能）。

扁桃摘出術	術者として 10 例以上	5	5		
鼓膜チューブ挿入術	術者として 10 例以上	1	4	4	1
喉頭鏡手術	術者として 10 例以上	3	3	3	1
内視鏡下鼻副鼻腔手術	術者として 20 例以上	2	8	8	2
気管切開術	術者として 5 例以上	1	2	2	
良性腫瘍摘出術（リンパ節生検を含む）	術者として 10 例以上	1	4	4	1

研修到達目標の評価

研修の評価については、プログラム統括責任者、指導管理責任者（専門研修推進施設）、専門研修指導医、専攻医、研修プログラム委員会が行う。
専攻医は専門研修指導医および研修プログラムの評価を行い、4とも良い、3良い、2普通、1これでは困る、0経験していない評価できない・わからない、で評価する。
専門研修指導医は専攻医の実績を研修到達目標にてらして、4とも良い、3良い、2普通、1これでは困る、0経験していない評価できない・わからない、で評価する。
研修プログラム委員会（プログラム統括責任者、指導管理責任者その他）で内部評価を行う。

領域専門研修委員会が内部評価を行う。

4年に1回以上、外部評価を受け、プログラムの必要な改善を行う。

修了判定について

4年間の研修期間における年次毎の評価表および4年間の実施記録目録に基づいて、知識、技能、態度が専門医試験を受けるにふさわしいものであるかどうか、症例記録が日本専門医機構の耳鼻咽喉科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(4年目あるいはそれ以降)の3月末に研修プログラム統括責任者または専門研修推進施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をする。



本年度の入局説明会を2018年7月20日金曜日19:30から医局において開催いたします。

対象は初期研修医・医学生となっておりますが、後期研修医や奈良医大耳鼻咽喉科と一緒に働きたいと考えている先生方も大歓迎です。参加希望の方は耳鼻科医局（内線3435）もしくは担当の山下までご連絡いただければ幸いです。



2018/06/22 22:35



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。今日は恒例の5回生1週ポリクリのめまい総括でした。

前回、問診や眼振で確定診断できなかったBPPV患者さんの大部分は「原因不明のめまい症」に分類されてしまっている可能性がある、と述べました。

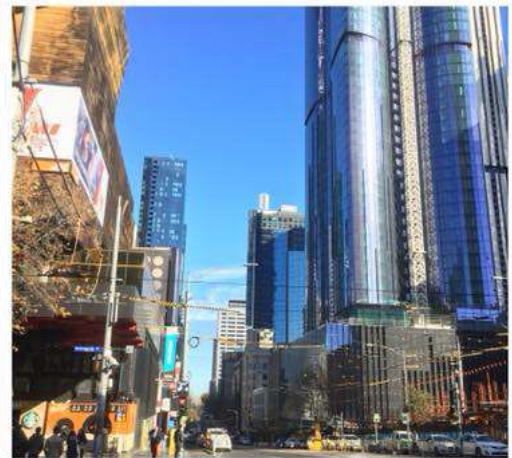
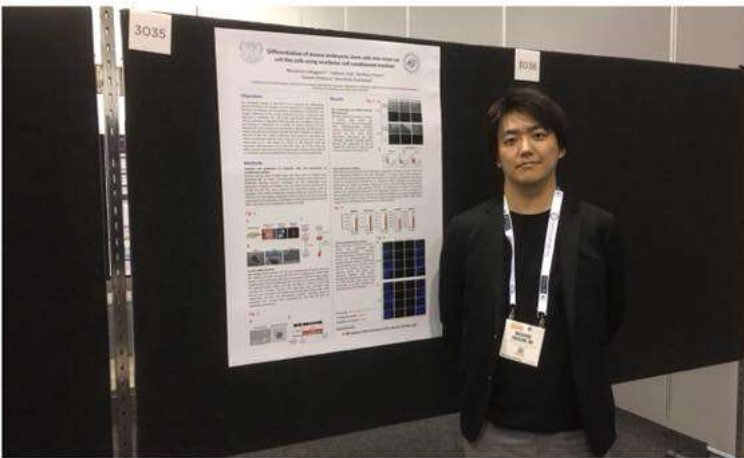
耳鼻科医はこのようなBPPVと診断しきれないBPPVに、どのように対処すれば良いのか。当めまいセンターでは、BPPVがその病態なら上半身を起こして就寝してもらい、めまい症状が軽減すればやはりBPPVだったのだ、という治療的診断を取り入れています。詳細は来週の耳鼻咽喉科臨床学会@横浜で。

今日は非常に嬉しいお知らせがあります。初期研修中の柳田真希先生が入局を決定してくれました。この良い流れに乗って来月の医局説明会に臨みたいと思います。

それでは良い週末を。



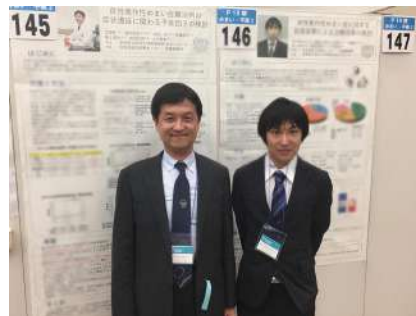
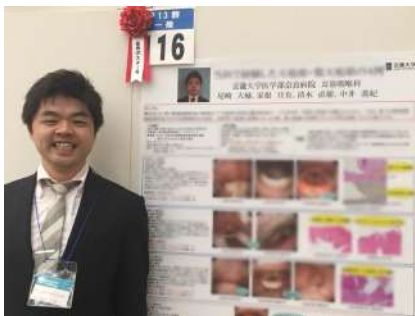
2018/06/26 20:41



国際幹細胞学会ISSCR2018がメルボルンで開催されました。当科からは大学院生の阪上医員が前庭有毛細胞再生に関してポスター発表を行いました。来年はロサンゼルスで開催予定です。



2018/06/30 19:47





耳鼻咽喉科臨床学会2018開催

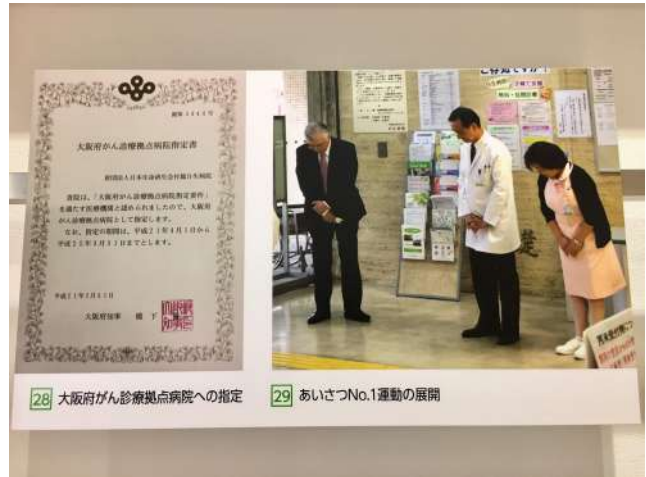
2018/06/29-30 パシフィコ横浜で耳鼻咽喉科臨床学会・学術講演会が開催されました。当教室からは北原教授のシンポジウム講演を始め、関連病院から尾崎医師、堀中医師が発表しました。また、太田講師がランチョンセミナーで今話題の免疫チェックポイント阻害薬について講演しました。その中で今回、尾崎医師がポスター賞を受賞致しました。おめでとうございます。

さらに特別講演では、今話題のブラックペアの原作者、医師でもある海堂 尊先生がAi死亡時画像診断のお話を中心に興味深いお話をしてくださいました。

ポスター発表が中心のこの学会は、日常臨床でのカンファレンスの内容を日本の耳鼻咽喉科医師が集って議論できる有意義な学術講演会です。主催の聖マリアンナ医科大学の皆様ありがとうございました。



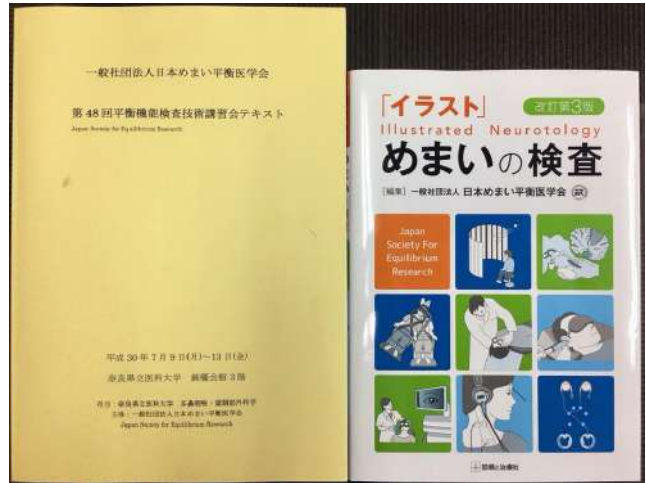
評議員	
細井 裕司	奈良県立医科大学 理事長・学長
木村 正	大阪大学大学院医学系研究科 教授 (産科学婦人科学)
熊ノ郷 淳	大阪大学大学院医学系研究科 教授 (呼吸器・免疫内科学)
武田 建	関西学院大学 名誉教授、関西福祉科学大学 名誉教授
佐藤 存	株式会社大阪ソーダ 代表取締役会長
澤 芳樹	大阪大学大学院医学系研究科 教授 (心臓血管外科学)
金森 滋美	株式会社ヒガシトウエンティワン 代表取締役社長
吉川 秀樹	大阪大学 理事・副学長
菅原 浩二	星光ビル管理株式会社 代表取締役社長
尾崎 裕	大阪ガス株式会社 代表取締役会長
石坂 信和	大阪医科大学 教授 (内科学Ⅲ)
松山 保臣	ニッセイ情報テクノロジー株式会社 代表取締役会長
金田 安史	大阪大学大学院医学系研究科 科長 (医学部長)
前川 幸子	甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科・大学院看護学研究科 教授
甲斐 晋史	公益財団法人日本生命財団 理事長
	堂島アバンザ管理株式会社 代表取締役社長
黒田 研二	関西大学人間健康学部人間健康学科 教授
朝日 智司	日本生命保険相互会社 取締役常務執行役員
田中 聡	日本生命保険相互会社 取締役執行役員



大阪にある奈良医大耳鼻科関連病院の一つ、日本生命病院が今年5月1日に阿波座駅前にリニューアル・オープンしました。笠山宗正院長の下、藤田信哉部長率いる耳鼻咽喉・頭頸部外科はめまい難聴疾患、鼻副鼻腔疾患を中心に活動しています。



2018/07/06 20:59



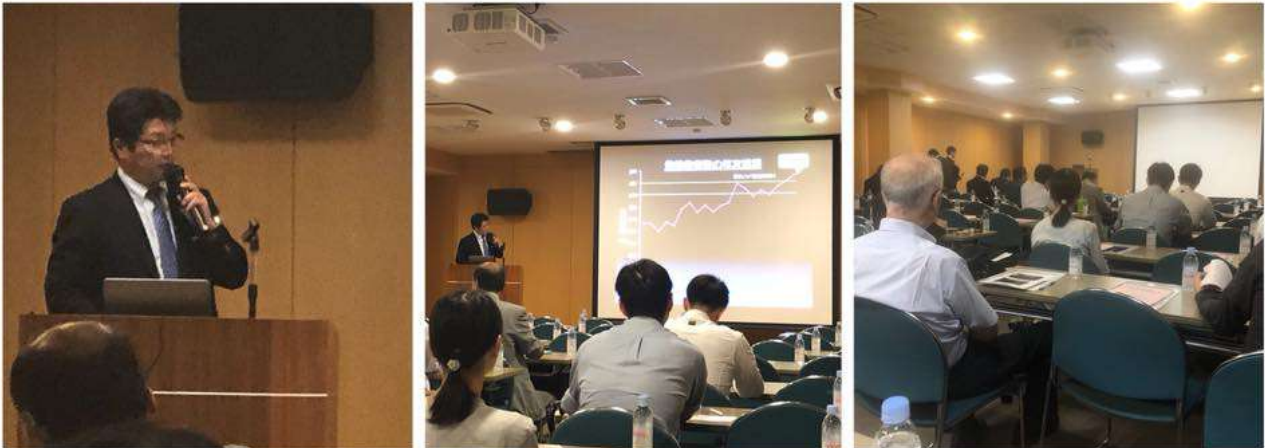
耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日は恒例の5回生1週ポリクリ+6回生8週選択ポリクリのめまい総括でした。5回生は選択ポリクリで、6回生は初期研修でまたお会いしたいと思います。

いよいよ週明け7月9日月曜から13日金曜まで、奈良医大同窓会いつかし会館にて、第48回平衡機能検査技術講習会が開催されます。受講者は例年より多めの34名。今回から臨床検査技師、看護師に加えて、言語聴覚士、理学療法士の方々も参加できるようになりました。また受講者全員に対して、第48回受講テキストのみならず、今年度10年ぶりに改訂されたイラストめまいの検査が配布されます。何かと記念すべき第48回になりそうです。受講者の皆様が参加して良かった、勉強になったと言っていただけるよう、スタッフ一同取り組んで参りたいと思います。

今後のお天気の行方が気になりますが、良い週末をお過ごしください。



2018/07/07 20:03



第34回 奈良県頭頸部腫瘍研究会

日時：平成30年7月7日（土）16時30分～18時30分
場所：厳樞会館 3階 大会議室
住所：〒634-8522 奈良県橿原市四条町840

【 情報提供 】 (16:15 ～ 16:30) メルクセローノ株式会社 休憩 (5分)

【 開会挨拶 】 (16:30 ～ 16:35)
奈良県立医科大学 口腔外科学講座 桐田 忠昭

【 講演 】 (16:35 ～ 16:55)
座長 近畿大学医学部奈良病院 耳鼻咽喉科 家根 且有

『平成29年 奈良県頭頸部癌患者受診実態』
—各施設頭頸部癌登録状況より—

独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター
口腔腫瘍外科 医長
上田 倫弘 先生

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 太田 一郎

【 一般演題 】 (16:55 ～ 17:25)
座長 奈良県立医科大学 口腔外科学講座 山川 延宏

【 閉会挨拶 】 (18:30 ～ 18:35)
奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学講座 浅川 勇雄

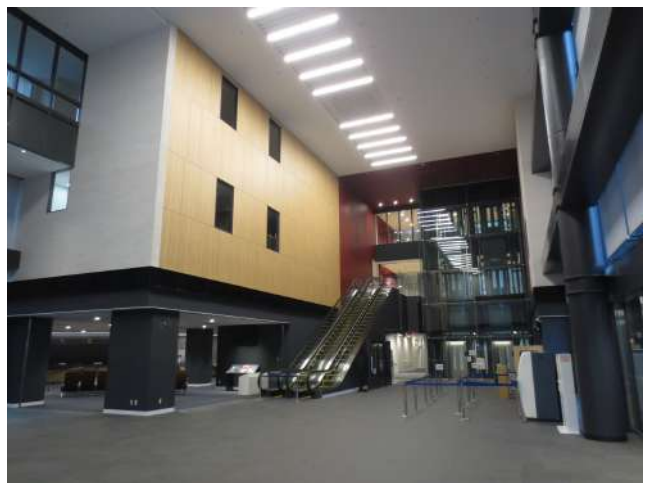
1. 「ニボルマブ投与後にパクリタキセル+セツキシマブ療法が
著効した再発舌癌の1例」

PhotoGrid

第34回奈良県頭頸部腫瘍研究会が、厳樞会館で開催されました。当科より太田講師が「平成29年 奈良県頭頸部癌患者受診実態」について講演を行いました。



2018/07/11 7:48

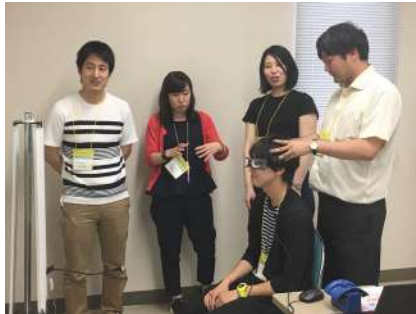
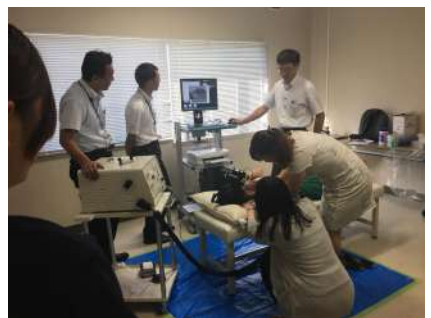


奈良医大耳鼻科関連病院の中で最も充実した施設の一つである、奈良県総合医療センターが今年5月1日に奈良市七条にリニューアル・オープンしました。成尾一彦・主任部長率いる耳鼻咽喉科は宮崎眞和・頭頸部外科部長とともに、耳鼻咽喉科領域すべてに対応すべく活動しています。



2018/07/13 12:56







奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室の担当

により、今週7月9日月曜から本日13日金曜まで、奈良医大同窓会いつかし会館にて、第48回平衡機能検査技術講習会が開催されました。受講者は全国から33名。今回から臨床検査技師、看護師に加え、言語聴覚士、理学療法士の方々も多数ご参加くださいました。

伊藤壽一・京都大学名誉教授の解剖生理のお話に始まり、講義、実習を経て最終日に小テスト、そして武田憲昭・日本めまい平衡医学会理事長の総括で締めとなりました。

この一週間とにかくお天気が良く、受講者もスタッフも少々バテ気味の様子でしたが、先程無事全日程を終了しました。

スタッフ一同、ご参加いただいた皆様の益々のご発展を祈念しております。素敵な週末三連休をお迎えください。

2018/07/13



Chihiro Morimotoさんは大塚 進太郎さんと一緒にいます。

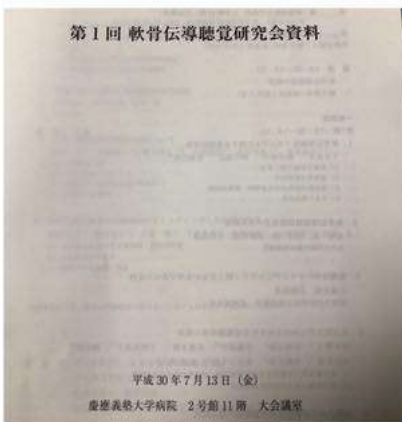
2018年7月13日

横浜で開催されている第14回日本小児耳鼻咽喉科学会に、大阪母子医療センター出向中の大塚進太郎先生と参加しています。

大塚先生は 気管腕頭動脈瘻、森本は経鼻エアウェイの報告をしました。今回は二人とも気道がらみの発表です。他の先生の報告を聞いてるとアグレッシブに色々な治療に取り組まれており、いいところを取り入れたいなと思います。

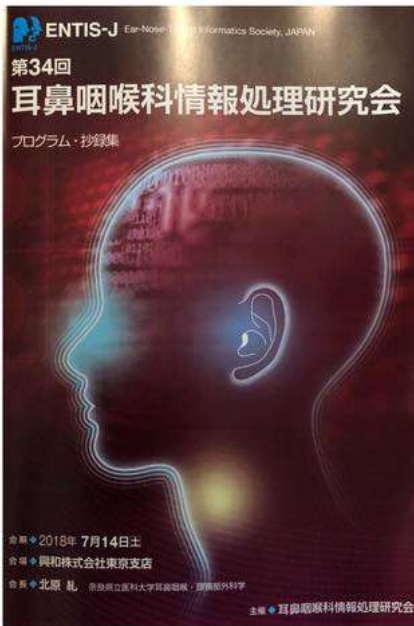
昨夜は大阪大学耳鼻咽喉科の太田先生、大阪総合医療センターの岡崎先生と楽しく飲みました(^^)活躍されてる素敵な先生方です。

2018/07/13 21:54



奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室の担当により、慶應義塾大学病院大会議室にて、第一回軟骨伝導聴覚研究会が開催されました。まず、奈良医大・細井裕司学長から軟骨伝導聴覚の概要について説明が行われました。一般演題では、当科・西村忠己講師が『市販化後に軟骨伝導補聴器のフィッティングした症例』を、共同研究を行っている島根大学・下倉良太先生が『軟骨伝導聴取メカニズムに関する基礎的研究』について講演いたしました。軟骨伝導補聴器は当科の研究成果から市販化に至った新しいコミュニケーションツールで、今後も幅広く普及されることが期待されています。記念すべき第一回の研究会開催となりましたが、全国各地からたくさんの耳鼻咽喉科の医師、ST、認定補聴器技能者の方にお集まりいただくことができました。

2018/07/14 16:44



奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室の担当により、東京新日本橋ホールにて、第34回耳鼻咽喉科情報処理研究会が開催されました。当科北原教授が大会会長を務め、西村忠己講師が軟骨伝導補聴器について、伊藤大学院生がメニエール病における内耳造影MRIについて講演いたしました。特別講演では、千葉大学フロンティア医工学センター教授の中川誠司教授に「心理・生理データに基づくサウンドデザイン」についてご講演いただきました。



2018/07/19 14:35



明日7月20日金曜日はいよいよ来年度に向けた奈良医大耳鼻科入局説明会を19:30から医局にて開催します。昨年度は定員を7名に設定したところ7名の申請がありました。今年度も定員7名としていますが混雑が予想されます。現時点で入局制限や入局試験を設ける予定はありません。



難波、京都、名古屋からアクセスが良く、奈良と大阪に連携病院を持ち、入試偏差値も上昇中の奈良医大(東大理三>京大医学部前期=奈良医大後期>阪大医学部前期)を考えてみませんか。

つきましては一日先駆けて奈良医大耳鼻科HPおよびFBをリニューアルしました。是非ご参考にしてください。

HP : <http://www.naramed-u.ac.jp/~oto/index.html>

FB : <https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed/>

2018/07/20 23:34



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。今日は恒例の5回生1週ポリクリのめまい総括でした。耳鼻臨床@横浜で発表しましたが、BPPVに対するヘッドアップ就寝治療はRCTで有効性が証明されました。頭位治療は重要な治療法だとは思いますが、頭位治療で一生懸命三半規管から追い出した耳石って、ほっといても代謝して消えるのではないのでしょうか。それよりヘッドアップで就寝すれば、新たに剥がれた耳石が三半規管に迷い込むことを防げるはず。耳石が剥がれて剥がれて困る患者さんにはこの治療法がオススメです。ただし頸部や腰部のケアが必要かも知れません。



2018/07/21 0:08



平成30年度奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座の医局説明会・懇親会を開催させていただきました。初期研修2年目の先生方6名、1年目の先生5名、計11名の先生にご参加いただくことができました。お忙しい中、ありがとうございました。多数の研修医の先生方に夜遅くまで残っていただき、色々な話をさせていただきました。近い将来、一緒に働けるようになることを楽しみにしております。またサプライズでありましたが、衛藤先生が入局の意志を固めていただいたことが判明いたしました。後日詳細もご報告させていただきます。また、今後も随時研修、見学、入局相談等を行わせていただきます。お気軽にお問い合わせいただければ幸いです。



2018/08/10 19:51



Format: Abstract + Send to -

Auris Nasus Larynx. 2016 Jul 2; pii: S0385-8146(16)30290-3. doi: 10.1016/j.anel.2016.05.010. [Epub ahead of print]

Idiopathic benign paroxysmal positional vertigo with persistent vertigo/dizziness sensation is associated with latent canal paresis, endolymphatic hydrops, and osteoporosis.

Kitahara T¹, Ota J¹, Horinaka K², Ohyama J³, Sakagami H⁴, Ito T², Shozani T², Wada Y², Yamashita T²

Author information

Abstract

OBJECTIVE: The aim of the present study was to examine the association of neuro-otological examination, blood test, and scoring questionnaire data with treatment-resistant intractability in idiopathic benign paroxysmal positional vertigo (BPPV) patients.

METHODS: We experienced 1520 successive vertigo/dizziness patients at the Vertigo/Dizziness Center in Nara Medical University during May 2014 to April 2016. Six hundred and eleven patients were diagnosed as BPPV (611/1520, 40.2%) according to the diagnostic guideline of the International Classification of Vestibular Disorder in 2015. Among BPPV patients, there were 201 intractable patients (201/611, 32.9%), 66 of whom were idiopathic and enrolled to be hospitalized and receive neuro-otological examinations, including the caloric test (C-test), vestibular evoked cervical myogenic potentials (cVEMP), subjective visual vertical (SVV), glycerol test (G-test), electrocochleogram (ECoG), inner ear magnetic resonance imaging (ieMRI), blood tests including anti-diuretic hormone (ADH) and bone alkaline phosphatase (BAP), and self-rating questionnaires of depression score (SDS). Sixty-six patients were diagnosed as horizontal type cupula (hBPPVcu, n=30), horizontal type canal (hBPPVca, n=10), posterior type (n=20), and probable and/or atypical BPPV (n=6). Data are presented as ratios (+) of the number of idiopathic BPPV patients with examination and questionnaire data outside of the normal range.



Format: Abstract + Send to -

Auris Nasus Larynx. 2016 Jul 30; pii: S0385-8146(16)30383-3. doi: 10.1016/j.anel.2016.07.003. [Epub ahead of print]

Ménière's disease with unremitting floating sensation is associated with canal paresis, gravity-sensitive dysfunction, mental illness, and bilaterality.

Kitahara T¹, Sakagami M², Ito T², Shozani T², Kitano K², Yamashita A², Ota J¹, Wada Y², Yamashita T²

Author information

Abstract

OBJECTIVE: The aim of the present study was to evaluate the association of neuro-otological examination, blood tests, and scoring questionnaire data with treatment-resistant intractability of persistent dizziness in Ménière's disease.

METHODS: We managed 1520 successive vertigo/dizziness patients at the Vertigo/Dizziness Center in Nara Medical University from May 2014 to April 2016. Five hundred and twenty-two patients were diagnosed with Ménière's disease (522/1520, 34.3%) according to the 2015 diagnostic guideline of the International Classification of Vestibular Disorders. Among the patients with Ménière's disease there were 102 with intractable rotatory vertigo attacks for more than 3-6 months (102/522, 19.5%), including 20 bilateral cases (20/102, 19.6%), and 88 with intractable unremitting floating sensation rather than rotatory vertigo attacks for more than 3-6 months (88/522, 16.9%), including 28 bilateral cases (28/88, 31.8%). Sixty out of 88 cases with intractable unremitting floating sensation were unilateral and were enrolled for hospitalization to undergo neuro-otological examinations including pure-tone audiometry (PTA), the caloric test (C-test), vestibular evoked cervical myogenic potentials (cVEMP), subjective visual vertical (SVV) test, glycerol test (G-test), electrocochleogram (ECoG), inner ear magnetic resonance imaging (ieMRI), blood tests including anti-diuretic hormone (ADH) and bone alkaline phosphatase (BAP), and self-rating questionnaires of depression score (SDS). Data are presented as positive (+) ratios of the number of patients with examination and questionnaire data outside of the normal range.

奈良医大附属病院めまいセンターでは2014年から、他院で原因不明と言われた症例あるいは治療に難渋する症例に対して、めまいに関連する一連の検査を1週間以内の短期入院にて施行しています。この検査入院の主たる目的の一つは、各めまい疾患の各罹病期における各めまい検査の異常率の辞書を作ることにあります。検査入院症例にはすべての検査が施行されますので、n=300を超えた現在それが可能になります。各めまい疾患の原因を探る、各めまい疾患の治療法を探る、あるいは新たなめまい疾患の発見につながるかも知れません。

まずは難治性BPPVと難治性メニエール病について、適切な診断と治療を考える際に何に注目すべきか、の英語論文を出しました。同一のめまい入院検査システムから生み出される論文ですので、途中までの論文形式は極めてパターン化されます。病名と検査数値が異なるだけ、と言えるかも知れません。これらの論文例に倣って、若い先生方には英語論文の執筆経験を積んでいただきたく思います。



2018/08/16 17:18

● お知らせ

第 36 回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会のお知らせ

第 36 回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会（旧頭頸部自律神経研究会）を下記の要領で開催いたしますのでご案内申し上げます。皆さまのご参加をお待ちしております。また神経組織・生理・薬理・生化学・免疫・アレルギー・分子生物・遺伝・腫瘍など幅広い耳鼻咽喉科領域の基礎的・臨床的演題を E-mail または郵送、FAX にて募集いたします。

会 期：2018 年 8 月 25 日（土）

会 場：ホテルグランヴィア大阪（大阪市北区梅田町 3-1-1）

TEL：06-6344-1235

会 費：3,000 円

企 画：特別講演【共通講習】

「抗菌薬を大事に使うー耐性菌の検査からその対策まで」

演者／矢野 寿一 先生

（奈良県立医科大学微生物感染症学講座 教授）

ランチョンセミナー

「ここまで進んだ再生医学ー多能性幹細胞から内耳有毛細胞への分化誘導法も含めて」

演者／吉川 正英 先生

（奈良県立医科大学病原体・感染防御医学講座 教授）

演題申込み：2018 年 4 月 1 日（日）～6 月 17 日（日）

演題名、演者名、所属、連絡先を明記し、300 文字以内の抄録を添えてお申し込みください。

E-mail での送信が不都合な場合は、郵送または FAX でも結構です。ただしこの場合は、抄録を CD などのメディアにコピーし、これをご郵送ください。

【演題申込み・問合わせ先】

〒634-8522 奈良県橿原市四条町 840

奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室

第 36 回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会事務局

事務局長 太田一郎

TEL：0744-29-8887／FAX：0744-24-6844

E-mail：entneuro36@naramed-u.ac.jp

第 36 回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会
会長 北原 紘

◎日本耳鼻咽喉科学会専門医単位、耳鼻咽喉科共通講習（1 単位）の日本耳鼻咽喉科学会の認定を申請中です。

◎特別講演（共通講習）の途中退席はお控えください。



第36回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会

会期：平成30年8月25日土曜 09:30-16:10

会場：ホテルグランビア大阪20F 鳳凰の間

第36回会長 北原 紘

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授

第36回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会を、奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室の担当で開催させていただくことになりました。大変、光栄に存じております。会員の皆様方には心より感謝申し上げます。

本研究会は、耳鼻咽喉科領域の基礎および臨床研究を通じて、耳鼻咽喉科学の進歩向上に貢献することを目的とし、昭和58年に設立された歴史ある研究会です。設立当時の「頭頸部自律神経懇話会」という名称は、昭和から平成への時代の移り変わりとともに現在の「耳鼻咽喉科ニューロサイエンス」となりましたが、1日、1会場、大阪開催という形式は現在もそのまま踏襲されています。はからずも当大学が平成最後の本研究会を担当させていただくことになりましたが、新しい時代に向けてこの研究会がさらに発展していけるよう、鋭意準備を進めております。

今回は一般演題23題と、例年よりやや多めの演題数が集まりました。会員の皆様方のご理解とご協力に感謝いたします。そのため、研究会開始が9時30分、終了が16時10分となっております。その他、この研究会にふさわしい内容のランチョンセミナー、共通講習・感染対策を企画しています。とくに、共通講習は診療所の先生方も比較的ご来場いただきやすいよう、遅めのお時間に設定しております。多くの先生方ご参加を、教室員一同、心よりお待ちしております。

ランチョンセミナー（12:10～13:10）

奈良県立医科大学 病原体感染防御医学講座 吉川正英先生

ここまで進んだ再生医学～多能性幹細胞から内耳有毛細胞への分化誘導法も含めて～

共通講習・感染対策（15:10～16:10）

奈良県立医科大学 微生物感染症学講座 矢野寿一先生

抗菌薬を大事に使おう～耐性菌の検査からその対策まで～

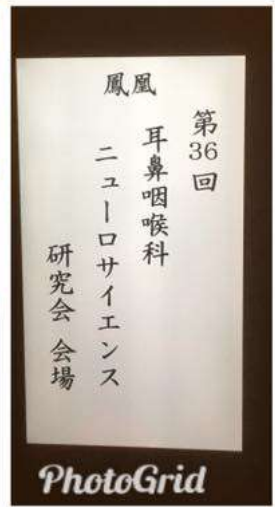
2018/08/23 21:56



当科前教授の細井裕司学長の古希をお祝いする会が開催されました。細井先生の耳鼻咽喉科現役時代にゆかりのある医局員、同門会の先生、看護師等大勢の方々にお集まりいただきました。



2018/08/26 13:00



奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室の担当により、ホテルグランヴィア大阪にて、第36回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会が開催されました。当科 北原教授が大会会長を務め、ランチョンセミナーでは奈良県立医科大学 病原体・感染防御医学講座 吉川正英教授に「ここまで進んだ再生医学-多能性幹細胞から内耳有毛細胞への分化誘導法も含めて-」について、特別講演では奈良県立医科大学 微生物感染症学講座 矢野寿一教授に「抗菌薬を大事に使おう～耐性菌の検査からその対策まで～」についてご講演いただきました。一般演題23題、参加者118名。参加いただいた先生方にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



2018/08/30 0:16



本日、第4回・側頭骨臨床解剖実習が解剖実習室で行われました。今年は奈良県総合医療センター、近大奈良病院、当科研修医の先生方に参加いただき、手術顕微鏡下に実習、モニター下に指導で、3献体並列で行っております。実施に際しまして、第一解剖学、第二解剖学、脳神経外科学教室の先生方には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



2018/08/31 23:28



20180830(Thu)-31(Fri)にかけて、日韓ジョイントでめまい平衡研究会が開かれました(仮称: ISNNconf)。第1回はProf. Arata Horiiの音頭で新潟大学医学部耳鼻咽喉科にて開催されました。韓国からはSNUのProf. Jawon Koo、InhaのProf. Kyusung Kimが仁川-新潟の直行便で参加してくれました。第2回以降をどのように進めるかは未定ですが、日韓が協力して当該分野に新たな成果を挙げられるよう、切磋琢磨していくことで合意しています。



2018/09/02 18:55



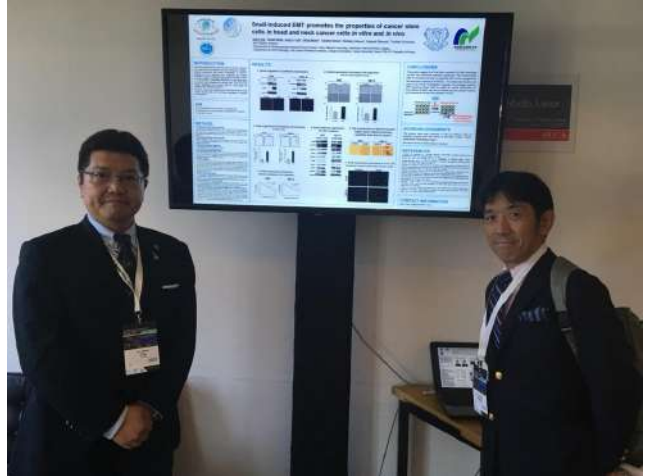
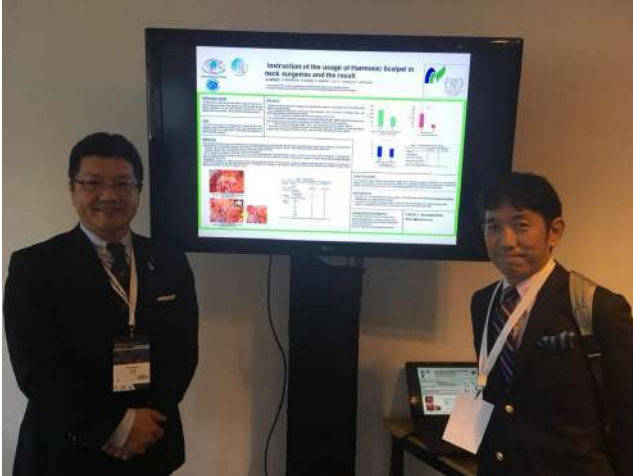
<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed/videos/680657958985885/>

医大生・研修医の皆さん。いよいよ9月に入りましたが、希望する科は絞り込まれてきたでしょうか。日本専門医機構からの通達で、2019年度専攻医採用登録は来月10月中旬に開始されます。耳鼻咽喉科は聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚といったヒトの五感に関わるニューロサイエンスの世界と、首から上の腫瘍、オンコロジーサイエンスの世界を併せ持つ、守備範囲の非常に広い分野です。皆さんの興味の居場所が必ず見つかるはず。耳鼻咽喉科学にはまだまだ未解決の事象が山積しています。一緒に耳鼻咽喉科学の謎解きの旅に出掛けましょう。Next Episodeの主人公はあなたです。お問い合わせ先: 山下哲範 TEL: 0744-22-3051 (ex. 3435) HP: <http://www.naramed-u.ac.jp/~oto/>



2018/09/06 19:53





IFHNOS2018

2018/9/1-4 地球の裏側、アルゼンチンのブエノスアイレスで開催された6th world congress of the international federation of head and neck oncology societiesに当科から上村准教授と太田講師が参加しました。4年に一度のこの学会は正しく世界各国の頭頸部腫瘍の関係者が集まり世界中で行われます。世界中の医療の現場も伺える貴重な機会です。今後もこのような世界中の先生方とも交流して行きたいと思います。次回2022年はイタリアローマで開催される予定です。

2018/09/09 10:29

第2回奈良-大阪めまい研究会
Nara-Osaka Vertigo Encirclement (NOVE)

講習 先生方におかれましては、ますますご多幸のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
この度、下記日程にて開催させて頂く運びとなりました。
ご多幸中とは存じますが、ご出席賜りますようお願い申し上げます。 謹白

【日時】 平成30年9月8日(土) 18:00~20:10
【場所】 シェラトン都ホテル大阪 3階 三笠の間
大阪市天王寺区上本町6-1-55 Tel.06-6773-1111
近鉄上本町駅直結
地下鉄谷町線・春日前線「谷町九丁目駅」より徒歩5分

情報提供 18:00 ~ 18:10
抗ヒスタミン剤 デザレックス の薬品特性について 杏林製薬(株)

一般講演 18:10 ~ 19:10
座長:奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 北原 礼 先生
1.「内耳造影MRIでめまいの鑑別診断はできるか」
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 伊藤 妙子 先生
2.「メニエール病のめまいと内リンパ水腫-フロセミド負荷VEMPによる考察-」
近畿大学医学部 耳鼻咽喉科 准教授 瀬尾 徹 先生
3.「メニエール病に対する五苓散の効果」
大阪市立大学医学部 耳鼻咽喉病態学 准教授 角南 貴司子 先生

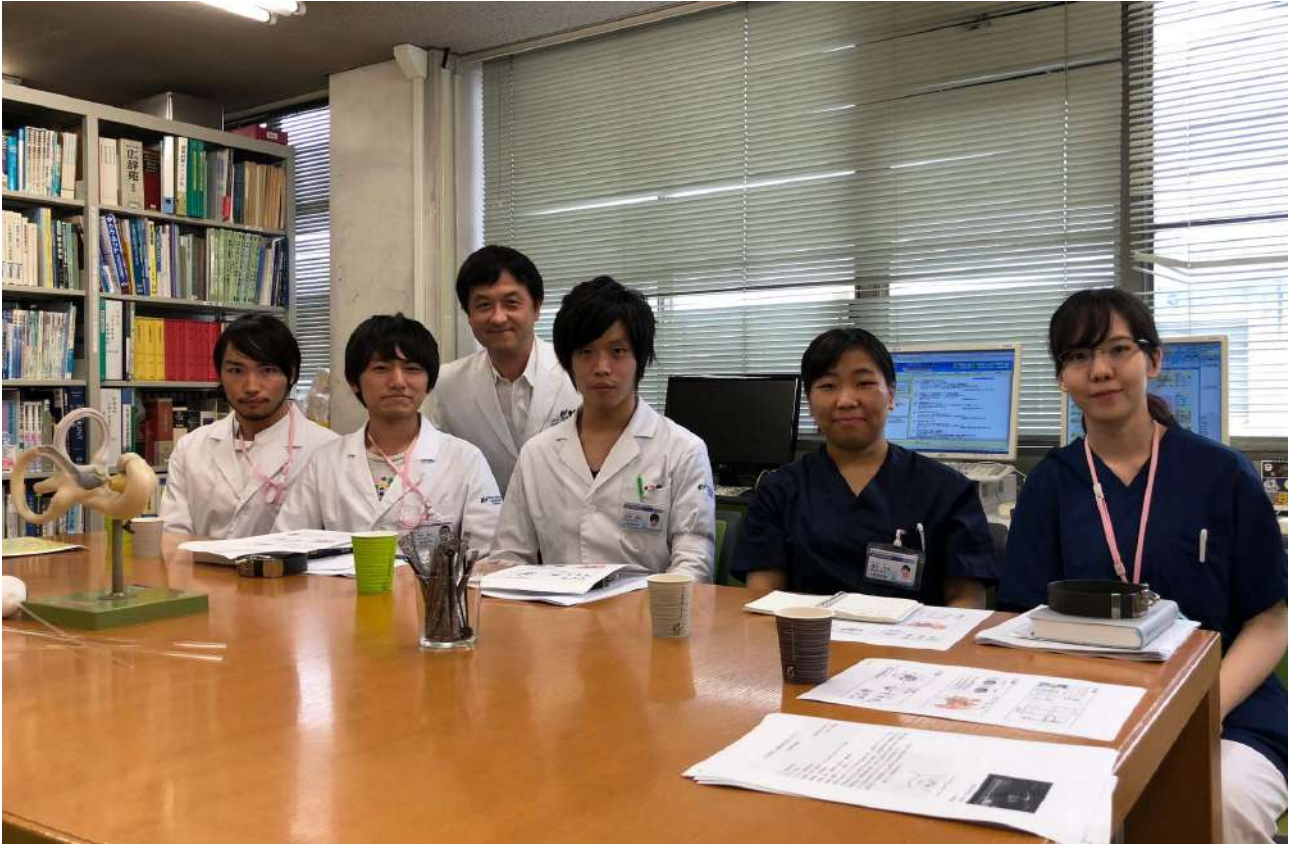
特別講演(領域講演) 19:10 ~ 20:10
座長:日本生命病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長 藤田 信哉 先生
「新たな内リンパ水腫推定検査に基づくメニエール病の病態」
東京大学医学部 耳鼻咽喉科 准教授 岩崎 真一 先生

・参加費として2,000円を申し受けます。
・研究会終了後、情報交換会を予定しています。 共催:奈良-大阪めまい研究会 杏林製薬株式会社

昨日は第2回奈良-大阪めまい研究会がシェラトン都ホテル上本町で開催されました。今回は日本生命病院耳鼻咽喉・頭頸部外科部長の藤田信哉先生に当番世話人をお願いして、「内リンパ水腫とメニエール病」をトピックスとする一般講演と特別講演が組まれました。一般講演は近大の瀬尾准教授、市大の角南准教授という豪華な講師陣に参加いただき、特別講演は東京大学医学部耳鼻咽喉科准教授の岩崎真一先生に「新たな内リンパ水腫推定検査に基づくメニエール病の病態」を講演いただきました。来年の第3回本研究会は、大阪市立大学医学部耳鼻咽喉科准教授の角南貴司子先生に当番世話人をお願いして、9月7日土曜日に同会場で開催予定です。めまいにご興味のある多くの先生方には、大阪地方連合会の後、中之島から上本町までお越しいただきたく思います。



2018/09/14 20:26



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日は夏休み明け、久々の5回生1週ポリクリのめまい総括でした。5回生の皆さんは4w/8w選択ポリクリでどの科を回るか、そろそろ考え始める頃でしょうか。

ちょうどそのタイミングで、半年近くかけてリニューアルしてきた奈良医大耳鼻科HPがこのほど完成しました。既に一部公開としていましたが、本日より全編公開となっています。

PC、スマホのいずれからも見やすい構成になっていますし、教室紹介、専門外来紹介等の動画を取り入れることで理解しやすい構成になっています。参考にいただければ幸いです。

HP制作会社の流楽・松崎匡浩氏とアトリエnicoのカメラマン・古木絢也氏のcollaborationによるhigh quality作品です。

<http://www.named-u.ac.jp/~oto/>



2018/09/16 1:34

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学facebook.com

いつもありがとうございます。お陰様で今しがた当FBサイトへの「いいね！」が1000件に到達しました。開始4年越しの大台はとても嬉しいことです。ちなみに当FBサイト「いいね！」1000人目横浜市在住のMZ様、1001人目横浜市在住のMF様、応援ありがとうございます。次は2000人を目指しつつ皆様のご期待にそえるよう頑張っ参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2018/09/30 2:14



2018年9月27日(木)から29日(土)にかけて、第57回日本鼻科学会「鼻科学の未来と国際化を語る」が、旭川医科大学の原淵保明会長の下、星野リゾートOMO7旭川で開催されました。

当科関連の発表として、奈良県立医科大学の木村直幹先生が「鼻出血より偶然認めた多型低悪性度腺癌の一例」、奈良県総合医療センターの成尾一彦先生が「良好な経過を辿った浸潤型副鼻腔真菌症例」、阪上 剛先生が「蝶口蓋孔を経由しない後鼻神経の一例」、愛知県がんセンターの西川大祐先生が「ニボルマブが著効を示した再発上顎扁平上皮癌の一例」を発表しました。



2018/09/30 6:48



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原仮面です。今週も恒例の5回生1週ポリクリのめまい総括でした。ポリクリ学生の皆さんには的確に症例をまとめて頂き、しっかりと疾患テーマも共有できました。
今週末も大きな台風が日本を縦断する模様です。皆さま気をつけて週末をお過ごしください。



2018/10/01 22:28



奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科は、本日より新しく二人の頼もしいDoctorを加え10月のスタートをきりました。金澤成典Dr、柘井貴史Drともに頭頸部腫瘍を専門とする経験豊富なDrです。頭頸部腫瘍診療を力強く前にすすめて行きたいと思えます。



2018/10/06 13:49



2018年10月3日(水)から6日(土)にかけて、第28回日本耳科学会 総会・学術講演会が、近畿大学の土井勝美会長の下、大阪国際会議場で開催されました。

当科関連の発表として、奈良県立医科大学の山中敏彰病院教授、西村忠己講師が口演を、阪上雅治大学院生がポスター発表を、奈良県総合医療センターの成尾一彦部長、堀中昭良先生がポスター発表を、日本生命病院の藤田信哉部長がポスター発表を、小泉敏三先生が口演を行いました。また、奈良県立医科大学 藤田裕人先生がハンズオンセミナーに参加しました。

来年は山形で開催予定です。



2018/10/06 15:46

頭頸部外科グループからのお知らせです。

第5回頭頸部手術手技勉強会を下記の日程で開催いたします。

日時：2018年10月26日 金曜日 19:00 開始

場所：奈良県立医科大学 臨床研究棟 1F 大会議室（変更になる場合があります）

テーマ：

- ①甲状腺手術に必要な解剖学
- ②甲状腺手術手技供覧ビデオ
- ③ハーモニックFocus plusを用いた頸部郭清術

共催：エチコン

関連病院その他施設、医学生、看護師の御参加を歓迎いたします。

参加施設、人数など以下のメールアドレスまでご連絡ください。

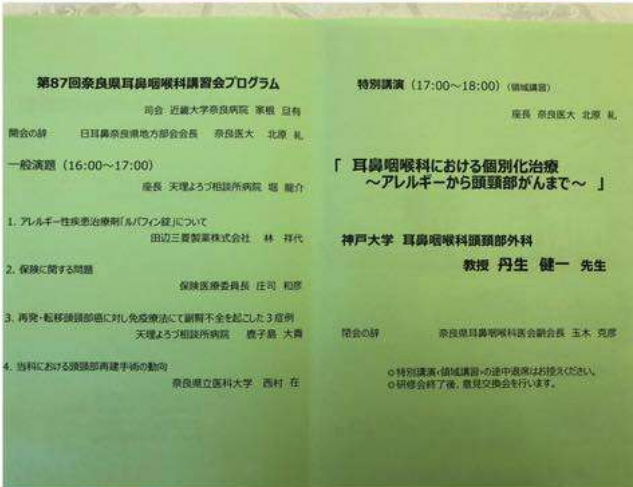
Mail: ari.n@narmed-u.ac.jp

奈良県立医科大学附属病院

耳鼻咽喉・頭頸部外科

西村 在

2018/10/06 18:26



本日、第87回奈良県耳鼻咽喉科講習会が奈良ホテルにて開催されました。一般演題にて、当科西村在医師が「当科における頭頸部再建手術の動向」について講演いたしました。また特別講演では、神戸大学耳鼻咽喉科頭頸部外科教授の丹生健一先生に「耳鼻咽喉科における個別化治療—アレルギーから頭頸部がんまで—」のご講演をいただきました。



2018/10/07 6:41

Join us for the following lectures:

Tadashi Kitahara, MD, PhD

Professor, Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery of
Nara Medical University Japan

*“Head position management during laydown
at home for intractable BPPV”*



Hiroshi Hosoi, MD, PhD

President, Nara Medical University Japan; Emeritus Professor, Otolaryngology-Head
and Neck Surgery, Nara Medical University Japan

*“Cartilage conduction hearing:
New phenomenon and hearing aid”*



**Friday, October 12, 2018
12:00 noon - 1:00 pm**

**Massachusetts Eye and Ear
Sloane Teaching Room, 3rd Floor
243 Charles Street**



2018年10月12日金曜、当大学 細井理事長・学長が日本発奈良医大発の軟骨伝導補聴器の国際的普及について、耳鼻咽喉・頭頸部外科 北原が世界最多めまい疾患であるBPPVの難治化予防対策について、米国ハーバード大学で講演します。同時に大学間の連携を強め、現在留学中の岡安先生に続く人材派遣について話し合う予定です。



2018/10/13 18:00



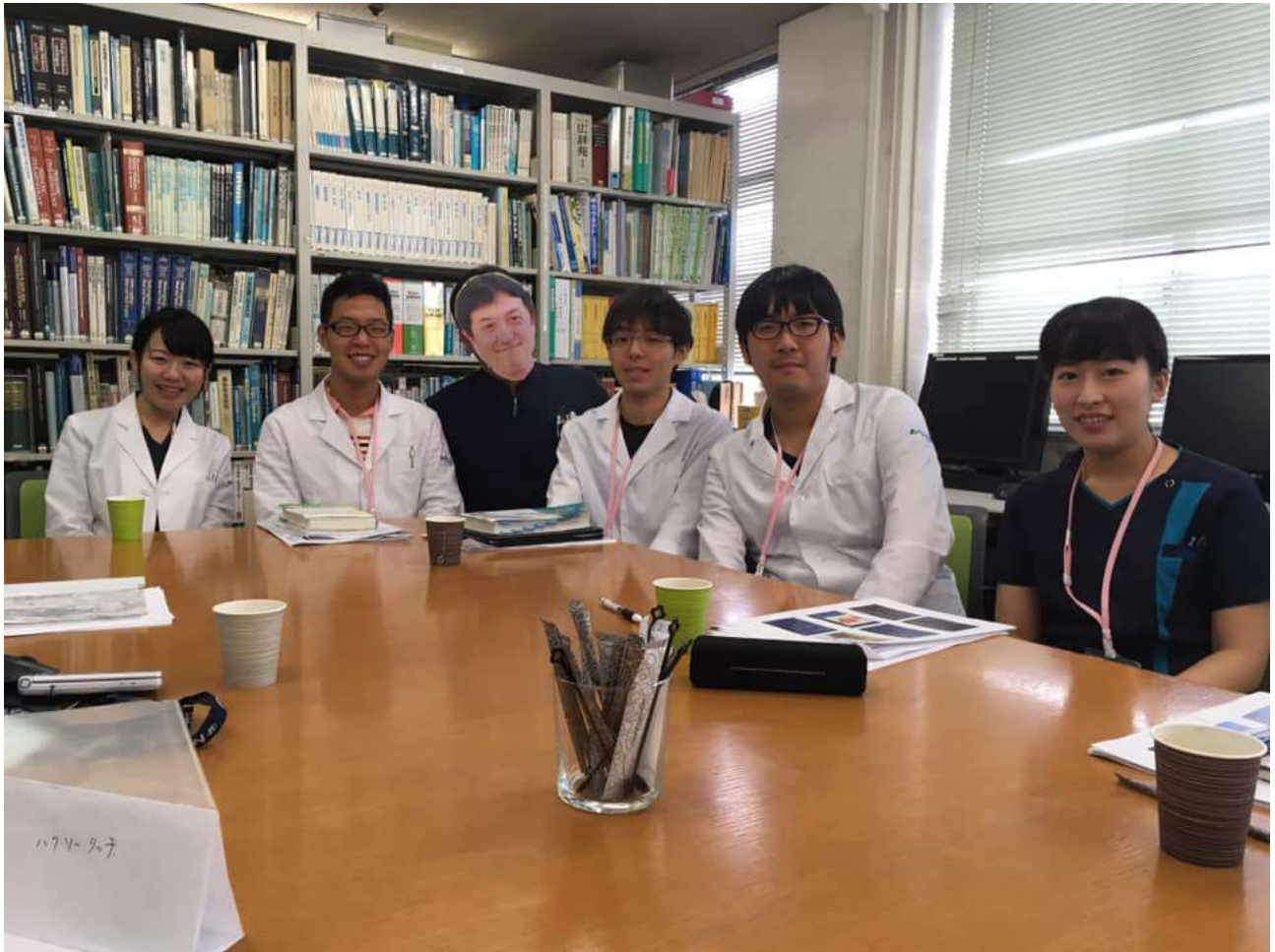
耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。10月の連休を利用して2年半ぶりのハーバード訪問。今回は細井理事長・学長に同行しています。

当初の予定通り、当科から留学中の岡安 唯先生を激励しつつ、前教授・Joseph Nadol先生および現教授・Bradley Welling先生との面談で今後の大学間連携を話し合いました。

講演に関しては、北原が「BPPVの難治化予防対策」について、細井理事長・学長が「軟骨伝導補聴器の国際的普及」について、お時間をいただいております。



2018/10/13 23:29



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原仮面です。今週もボストン出張中の北原教授に代わり、恒例の5回生1週ポリクリの総括でした。

ポリクリ学生さん達としっかりと疾患テーマを共有できました。

今週末は天候も良く、古都奈良の行楽の秋のシーズン到来です。良い週末をお過ごしください。



2018/10/17 19:33



<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed/videos/191592931737887/>

医大生・研修医の皆さん。日本専門医機構から「2019年度専攻医採用登録が10月中旬には開始されます」との通達があって現在、10月中旬を過ぎようとしています。登録開始はまだです。希望する科は絞り込まれてきたでしょうか。迷っている人も多いのではないのでしょうか。

耳鼻咽喉科に進んだ先輩を考えたとき、爽やかで思いやりのある先輩の姿が頭に浮かびませんか。それはおそらく、いっぱいいっぱいではなくちょっと余裕も持って医師をやっているからではないのでしょうか。「爽やかで思いやりのある耳鼻咽喉科PV」をお送りします。参考にしてください。

⇒週明け10月22日(月)12時から、一次登録の開始が決定されました。初期研修医2年目の先生方、お忘れ無きよう、よろしく願いいたします。関係者の先生方、「いいね!」「シェア」のほど、よろしく願いいたします。

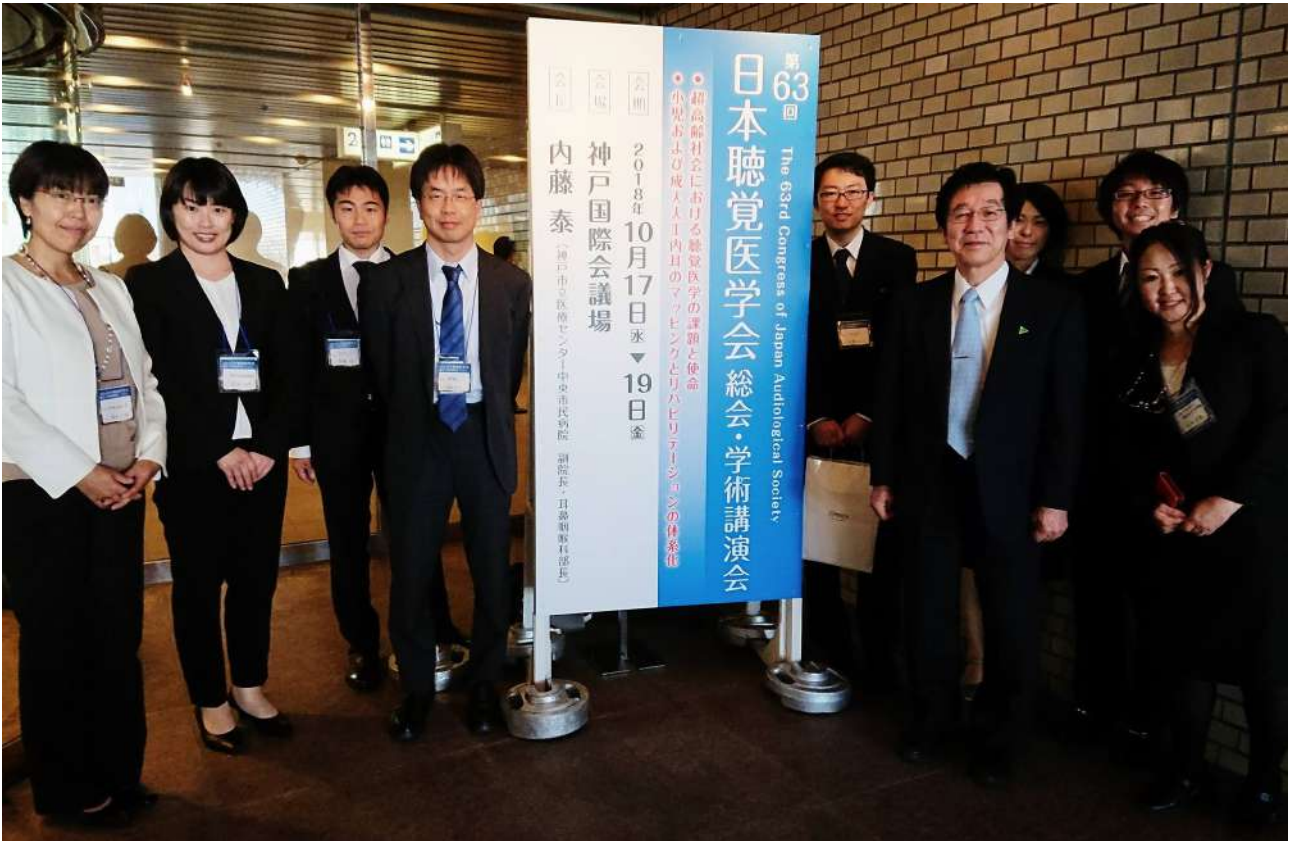
お問い合わせ先: 山下哲範

TEL: 0744-22-3051 (ex. 3435)

HP: <http://www.naramed-u.ac.jp/~oto/>



2018/10/19





Chihiro Morimotoさんは大塚 進太郎さん、北野 公一さんと一緒にです。

2018年10月19日

10/18-19と神戸国際会議場で開催された第63回日本聴覚医学会総会・学術講演会に参加しました。奈良県立医科大学耳鼻咽喉科及び関連病院、施設からは西村忠己講師が市販化された軟骨伝導補聴器のフィッティング効果、大阪大学大学院基礎工学研究科下倉良太准教授が軟骨伝導によるアクティブノイズコントロールの試み、当科齋藤修言語聴覚士がマスク着用による聞き取りへの影響と聴力について、済生会中和病院の赤坂咲恵先生が子音別の雑音負荷による有効継続時間の変化について、大阪母子医療センター大塚進太郎先生が機能性難聴の語音弁別能検査について、私が先天性サイトメガロウイルス感染症の遅発性難聴について報告しました！

当院学長の細井裕司先生と西村忠己講師は補聴部門の座長を勤められました。

学会には北野公一院生も勉強に来られました！

当科で開発を行った「軟骨伝導補聴器」の使用者が全国に広がりつつあることを実感できた学会でした。

神戸はとても良い天気、海も穏やかでした！ご参加された皆様、お疲れ様でした(^-^)/ ✨



2018/10/21 2:31

第2回奈良県耳鼻咽喉科漢方セミナー

【日時】2018年10月20日(土)18:30開始
【場所】ホテルフジタ奈良 奈良県奈良市下三条町47-1

—プログラム—
18:30-18:45 製品紹介 クラシエ薬品 学術部
【開会の辞】
奈良県耳鼻咽喉科医会
副会長 玉木 克彦 先生

【特別講演】18:45-19:15
《座長》奈良県耳鼻咽喉科医会
副会長 玉木 克彦 先生

『柴苓湯の長期効果とメニエール病に対する臨床研究について』
日本生命病院
主任部長 藤田 信哉 先生

【特別講演】19:15-20:15(質疑応答を含む)〈領域講習〉
《座長》奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
教授 北原 紘 先生

『めまい・耳鳴り・難聴』
～柴苓湯と半夏白朮天麻を中心に～
金子耳鼻咽喉科クリニック
院長 金子 達 先生

【閉会の辞】
東辻医院
院長 東辻 英郎 先生
※講演会終了後、情報交換会をご準備致しております。

共催：奈良県耳鼻咽喉科医会・日耳鼻奈良県地方部会・クラシエ薬品(株)
※お問い合わせ：クラシエ薬品(株) 06-6261-1635 へご連絡ください。
当日連絡先080-3412-3856(森神)

※耳鼻咽喉科領域講習
○専門医単位、耳鼻咽喉科領域講習(1単位)申請中
日耳鼻学会参加報告書の受付はございません。
○特別講演(領域講習)の途中退席はお控えください。



昨日はホテルフジタ奈良において奈良県耳鼻咽喉科漢方セミナーが開催されました。昨年4月に引き続き第2回のセミナーということになります。特別講演Iでは日本生命病院耳鼻咽喉科主任部長の藤田信哉先生がメニエール病に対する漢方の無作為化比較試験について、特別講演IIでは金子耳鼻咽喉科クリニック院長の金子達先生にめまい・耳鳴り・難聴に対する東洋医学的視点からの診療のコツについて、ご講演いただきました。奈良県では漢方を古くから栽培するなど、奈良県と漢方薬との関係には歴史があります。この漢方セミナーをきっかけに、漢方薬が効いたという単純な症例報告ではなく、耳鼻咽喉科疾患に対する漢方薬の有効性を無作為化比較試験できっちり証明していきたいと考えております。

2018/10/21 21:01



	5	6	7	計
三重	1	0	1	6
奈良	2	0	0	2

本日、三重大学耳鼻咽喉科と奈良県高塚グラウンドにて親善野球試合を行いました。初回からコツコツと三重大学チームが加点して徐々に点差が開いていきましたが、中盤から奈良医大耳鼻科チームも追いつき緊迫した試合展開になりました。残念ながら昨年に続き、敗戦とはなりましたが次回に向けて希望がもてる結果となりました。

また試合後の懇親会では、三重大学耳鼻咽喉科の医局員、野球チームのみなさまと交流を深めさせていただきました。両医局共に若い先生がたくさん加入してきていることもあり、今後も野球のみならず学術的にも交流をはかっていきたいと思います。



2018/10/26 18:42



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。国内学会、海外出張が続きましたので、本日は1ヶ月半振り久々の5回生1週ポリクリ・めまい総括でした。4w/8w選択ポリクリで耳鼻科を回るとこんな素晴らしいことがある、という話をしようと意気込んでいましたところ、既に5回生の皆さんの選択科は決定されているとのこと。選んでいただいた諸君、お待ちしております。

明日からの土日2日間で、奈良県立医科大学学園祭「白檀生祭」が開催されます。盛りだくさんなイベントが企画されているようですので、皆さん楽しい週末をお過ごしください。

個人的に毎年、「白檀生祭」を楽しみにしています。今年はスケジュールの都合上、奈良県ゆるキャラ大集合@奈良医大にしか参加できない模様です。出演：しょうとくた医師、こだい、ハッピー、雪丸、吉野ピンクル（敬称略）。



2018/10/27 21:30

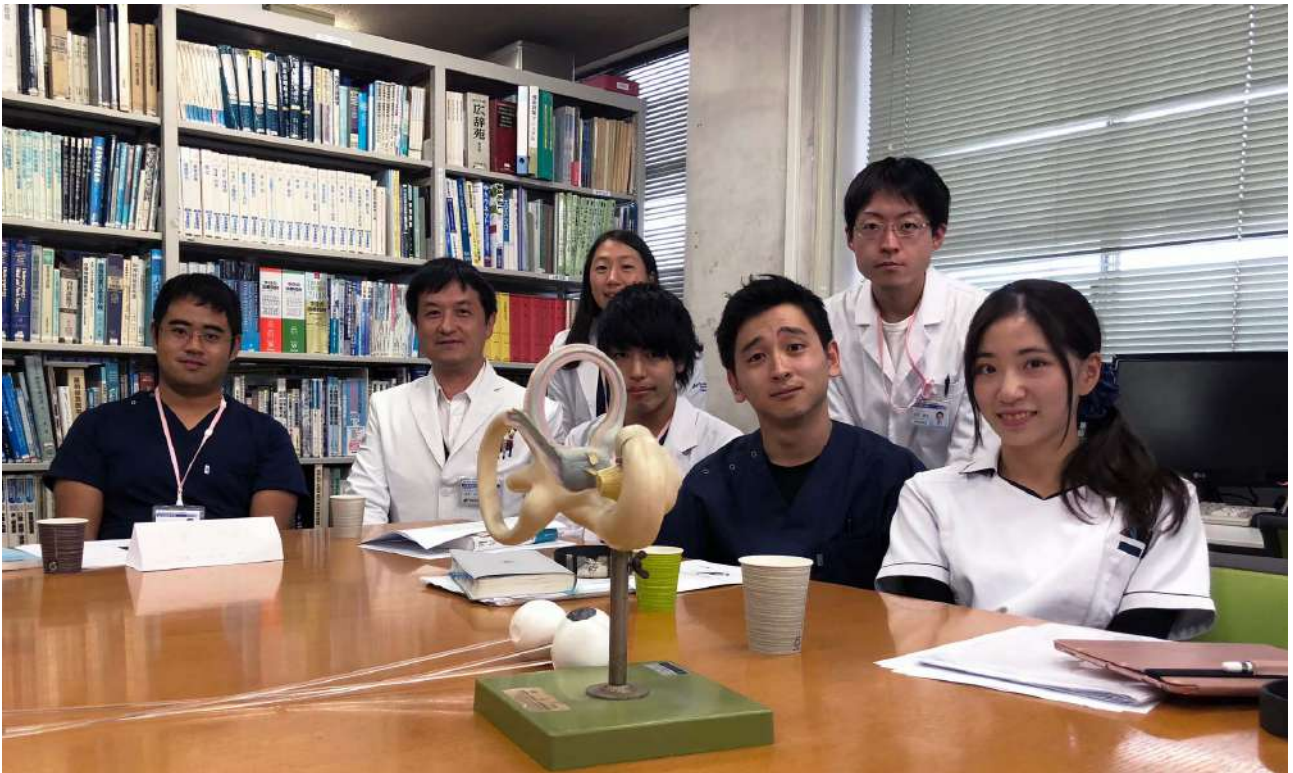


Program	
開会の辞	奈良県耳鼻咽喉科医会 会長 大橋 一博 先生
特別講演 1 17:00-18:00 17:00-18:00	
座長	天理よろづ相談所病院 耳鼻咽喉科 部長 堀 龍介 先生
患者満足度向上を目指した アレルギー性鼻炎の診療	
演者	国際医療福祉大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授 岡野 光博 先生
特別講演 2 18:00-19:00 18:00-19:00	
座長	奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 北原 亂 先生
腫瘍体積から考える頭頸部癌の個別化治療	
演者	大阪大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 猪原 秀典 先生
閉会の辞	近畿大学医学部奈良病院 家根 旦有 先生



本日LeBENKEIにて、奈良県耳鼻咽喉・頭頸部外科セミナーが開催されました。特別公演では国際医療福祉大学医学部耳鼻咽喉科教授の岡野光博先生に「患者満足度向上を目指したアレルギー性鼻炎の診療」を大阪大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授の猪原秀典先生に「腫瘍体積から考える頭頸部癌の個別化治療」についてそれぞれご講演いただきました。

2018/11/09 18:13



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の5回生1週ポリクリ・めまい総括の時間でした。内耳にある卵形嚢というほぼ水平なお皿の上の耳石が剥がれて、三半規管に入る病気がBPPVである、ということは万人の知るところになりつつあります。一方、内耳にある球形嚢というほぼ垂直なお皿の上の耳石が剥がれて、蝸牛系の管に詰まるとメニエール病になる、という話の真偽のほどはわかっていません。臓器の構造と発症環境を考えると、BPPVは何らかの原因で剥がれた耳石が寝る時に水平位からほぼ垂直位になった卵形嚢からこぼれ落ちて三半規管に入り朝起きる時その耳石が暴れるので発症するし、メニエール病の発症要因トップは睡眠不足ですので横たわれない時間が長く続く時ほぼ垂直位のままの球形嚢から耳石がこぼれて蝸牛系の管に詰まると内耳に水ぶくれが起こる。こう書くと前者はこのメカニズムで良いのですが、真偽のほどが決定していない後者ももっともらしく聞こえてしまいます。当たり前ですが、医師は病気の発症メカニズムを解明することで満足してはいけません。患者さんを治すことを考えないといけませんので。奈良医大附属病院めまいセンターでは、頻発遷延の難治性BPPV患者さんに、就寝時なるべく卵形嚢を垂直位にしないヘッドアップ治療を指導しています。しかし、メニエール病に関して、もし前述のメカニズムで考えるなら、球形嚢をなるべく水平位に保つため寝たきりであることを勧めなければなりませんね・・・。

今日は生憎の空模様でした。明日明後日は最高気温が20度台まで上がる良い天気になるようです。皆様、素敵な週末をお過ごしください。

2018/11/16 9:22

泉北耳鼻咽喉科セミナー2018

日時：平成30年11月15日(木) 18:00～19:30
場所：ベルランド総合病院 地下1階 AIFホール
堺市中区東山500-3 Tel:072-234-2001

プログラム

開会の辞(18:00～18:05)
ベルランド総合病院 院長 亀山 雅男

一般演題(18:05～18:25)
座長：いしかわ耳鼻咽喉科クリニック 院長 石川 雅洋 先生
『当科における耳鼻咽喉科診療～新規抗アレルギー薬を含めて～』
演者：ベルランド総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 副部長 三上 慎司

特別講演(18:25～19:25)
座長：奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 北原 晃 先生
『頭頸部癌に対する手術治療の変遷
～根本的頸部郭清から鼻内視鏡下頭蓋底手術まで～』
演者：奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 准教授 上村 裕和 先生

閉会の辞(19:25～19:30)
ベルランド総合病院 看護部長 前原 陽子

※講演会終了後、情報交換会をご用意しております。
※大阪府医師会生涯研修単位 申請中
※お問い合わせ：大塚薬品工業株式会社 大阪支店問出酒所
TEL：072-228-4527 FAX：072-228-1555



昨日は主力関連病院の一つである、ベルランド総合病院にて「泉北耳鼻咽喉科セミナー2018」が開催されました。ベル耳鼻科は頭頸部外科分野を中心とした発展を目指していますので、特別講演として外科マスター・上村裕和先生による「頭頸部癌に対する手術治療の変遷」が企画されました。セミナー終了後、とても自由な雰囲気懇親会が催されました。ベル耳鼻科のmottoは「Live Free or Die」です。しがらみに疲れた方も、そうでない方も、ともに楽しく耳鼻科しましょう。



2018/11/18 22:09



<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed/videos/658196331240671/>

医大生・研修医の皆さん。専門研修プログラム一次登録の締切が11月21日、今週水曜に迫りました。既に登録は済まされましたでしょうか。大学や科によっては二次登録の募集をしないところもあります。まだ迷われている先生方は今一度、予定確認されることをお勧めします。

当教室は1945年に開講し、めまい平衡医学さらに聴覚医学を中心に発展してきた、70年以上の歴史を持つ伝統ある教室です。それと併行して、大阪府立成人病センター、現・大阪国際がんセンターの流れをくむ、実力のあるスタッフにより発展させた頭頸部腫瘍の分野も、当教室の原動力になっています。

めまい・難聴分野と頭頸部腫瘍分野を車の両輪とし、11の専門分野を引っ提げて、地域に寄り添い世界と競える強い耳鼻咽喉科を目指します。

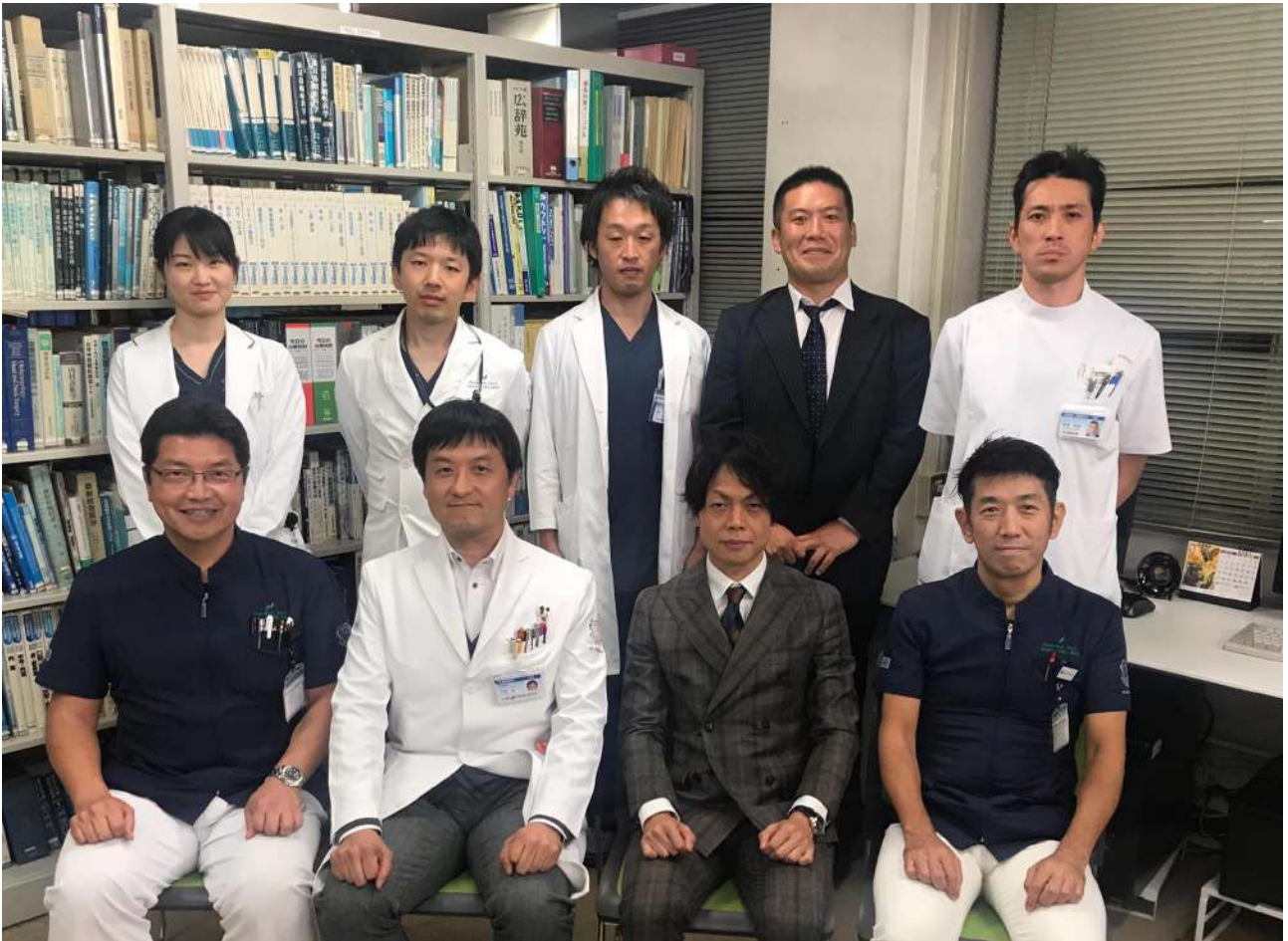
お問い合わせ先: 山下哲範

TEL: 0744-22-3051 (ex. 3435)

HP: <http://www.naramed-u.ac.jp/~oto/>



2018/11/22 8:25



昨夜はJCOG1601臨床試験のスタートアップミーティングのために事務局を務められている愛知県がんセンターの花井信広先生が訪問してくださいました。

日本が誇るがんの臨床研究グループJCOG 頭頸部癌グループによるこの臨床試験JCOG 1601は、早期舌癌の頸部郭清術の意義を問う非常に重要な臨床試験です。

当科としましてもJCOGの一員として一丸となって協力していきたいと考えています！

早期舌癌でお悩みの患者さん、先生方はお気軽にお問い合わせ下さい。



2018/11/22 18:21

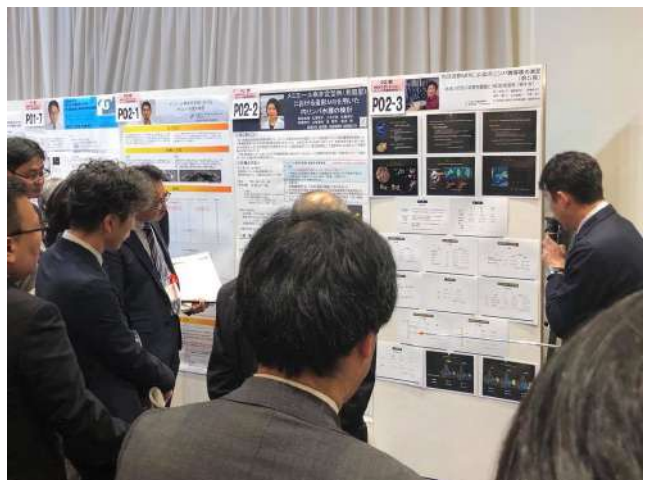
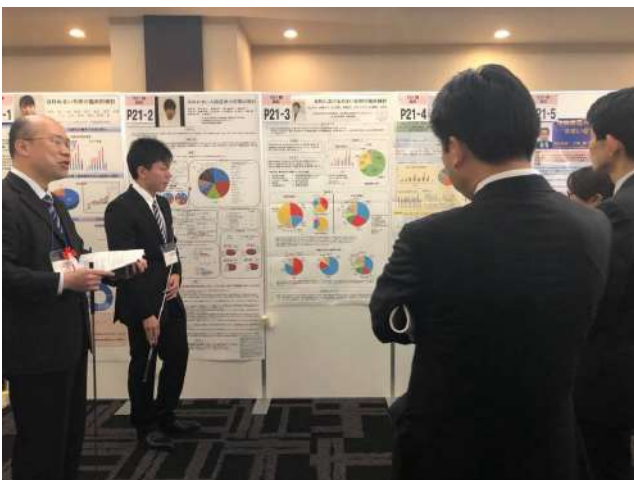


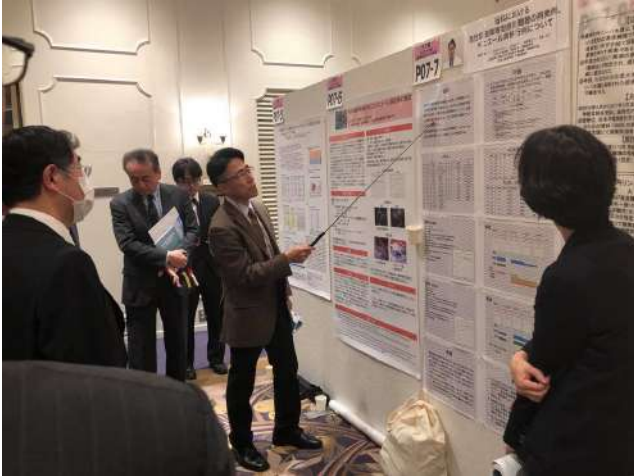
耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の5回生1週ポリクリ・めまい総括の時間でした。今回でこの学年のポリクリも無事終了。来月から新5回生の1週ポリクリ、新6回生の選択ポリクリが始まります。さらに初期研修の先生が複数人、耳鼻咽喉科を回ってくれることになっています。さらにさらに後期研修医の一次登録の締切と二次登録の開始にも注意を払いながら。

週末三連休が過ぎれば、もはや今年も残すところ1ヶ月余り。早いものですね。ステキな三連休をお過ごしください。



2018/11/30 15:03





2018年11月28日～11月30日にかけて、山口県湯田温泉で日本めまい平衡医学会が開催されました。当科および連携病院からは北原、塩崎、松村、和田、山中が口演にて、乾、伊藤、大山、藤田、松山がポスターにて発表しました。例年通り、奈良医大関連からは大勢の参加で盛り上がりました。

塩崎先生、松山先生は本学会での初めての発表でしたが、無事立派に発表と質疑を終えました。また、伊藤先生は『内耳造影MRIでメニエール病を鑑別する』にて、本学会で二度目の最優秀ポスター賞を受賞しました。さらに、今回の学会会期中に執り行われた学会創立60周年記念式典では、北原が『内リンパ嚢開放・高濃度ステロイド挿入術の開発』にて、60周年記念理事長賞として表彰されました。これをワン・ステップとして、さらに高みを目指し精進したいと思います。



2018/12/01 15:05

このたび、奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室が耳鳴分野で共同研究させていただいている野田和裕先生から、耳鳴発生に関する新しい仮説検証論文がFrontiers in Neuroscience誌に掲載されました。以下に本論文内容を、なるべくわかりやすく説明させていただきました。お時間のお有りのとき、お読みいただければ幸いです。また原著はOpenAccessになっておりますので、ご自由にdownloadください。

Sound Change Integration Error: An Explanatory Model of Tinnitus

Kazuhiro Noda, Tadashi Kitahara and Katsumi Doi

Front. Neurosci., 27 November 2018

<https://doi.org/10.3389/fnins.2018.00831>

音変化の積分のエラー：耳鳴モデル

①「何かの異常が起こる」従来の耳鳴モデル

従来の耳鳴モデルでは、耳鳴は神経活動、神経構造になんらかの異常が「起こる」ことで生じるとされてきました。しかし、残念ながら耳鳴に関連するそれらの異常は、今のところ観察されていません。また、これらの異常が生じるためには数日を要しますが、無響室に入れば正常人の大半が5分以内で耳鳴を感じますし、マスク音を提示すると慢性耳鳴患者の大半が1分以内で耳鳴が小さくなったと感じます。つまり、従来理論は、耳鳴の時間特性と合致しません。耳鳴のパラドックス：「耳鳴が生じるためには、難聴が前提であるが、同程度の難聴者でも耳鳴の大きさは様々である」は、従来理論で説明することは困難です。これらの矛盾が解決できないために、耳鳴が何なのかは本質的には分からない、とされてきました。

②「何も起こらない」我々の耳鳴モデル

私たちは、耳鳴とは、聴覚情報のデータ処理上の誤差だと考えました。我々が現代生活で、音楽情報や画像情報を扱うときに、当然ながら情報技術の原則にしたがって処理をします。iPadやCDなどで用いられるMP3、JPEGなどの圧縮処理は、なじみのあるものだと思います。私たちは、内耳から知覚に至る情報処理で、このMP3のような圧縮技術が使われているはずだと想定しました。（MP3は高度な技術ですが、その大元の原理である「差分PCM」は、理解しやすく効果も劇的であるため、差分PCMで説明します。）この原理で考えると、音情報が入らない、神経の異常も起こらない、という何も起こらないことが、データの誤差を生じさせることがわかります。つまり我々の理論は、従来に対し全く逆説的な「何も起こらない」ことこそが耳鳴の原因であるという初めての理論です。

③知覚更新モデル

内耳を取り巻く音環境は、刻一刻と変化しています。音環境を擬似的に周波数分布グラフとして表現しました。音環境は、短い時間に少しずつ変化していきます。最初のAから次の瞬間にBに変化した場合、A、Bの差は僅かです。内耳の変化を知覚に反映させるためには、どうするべきか。例えば、全ての領域の現データをすべて知覚に伝える方法と、変化分だけを伝えて知覚を修正していく方法があります。時間間隔が短ければ短いほど、変化分（差分）だけを伝えたほうが、効率的なことがわかります。これが、差分PCMの原理の



すべてです。（もっとも単純な情報圧縮の理論です）私たちの聴覚の知覚はまさしくこのようにして更新されているのであり、聴覚N1の正体がまさしく差分データだと考えています。

さて、このような仮定の上で、もし4000Hzの内耳領域が情報伝達を怠けているとしたら、どうなるかを考えます。内耳の4000Hzの感知の能力が低下して、4000Hzに該当する更新データが知覚に送られなくなった場合、4000Hz領域の知覚値を決めることができなくなります。従来常識では、4000Hz領域の信号の欠如は、知覚音量が「ゼロ」となりますが、このモデルでは、「不確定」となります。つまり、あらゆる音量をとりうる、ということです。これが、「難聴によって耳鳴が生じうるが、その音量は様々である」という最大のパラドックスを説明する基本骨子です。それでは、各患者によってどのように耳鳴音量が決まるのか、は難しい問題ですが、論文においてその可能性を議論しています。さらに細かな部分は、論文を参考にさせていただきとして、知覚の情報処理がどのようなものであれ、基本原則は当てはまるはずで、その場合、このような圧縮技術は、情報効率から考えて不可欠と思われれます。知覚更新モデルは、この基本原則を当てはめることだけで、従来説明不可能であった、時間特性やパラドックス、 masker療法などを具体的に説明できる、という特徴をもっています。

<https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fnins.2018.00831/full>



2018/12/08 9:21



第6回 Head and Neck Cancer Conference
日時：2018年12月7日（金）18:45～20:15
会場：かしはら万葉ホール 5F レセプションホール
奈良県橿原市小房町11-5 TEL：0744-29-1300

謹啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
時下、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。この度、下記の要領にてセミナーを開催致します。
先生におかれましてはご多忙のことと存じますが、万障お繰り合わせのうえご出席賜りますようお願い申し上げます。 謹白

開会の辞：北原 胤 先生
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 教授

座長
家根 旦有 先生
近畿大学医学部奈良病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授

一般講演 (18:45～19:15)
『頭頸部癌治療におけるセツキシマブの使用経験』

演者
高橋 佑佳 先生 奈良県立医科大学 口腔外科学教室
秋岡 宏志 先生 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座
文田 壮一 先生 近畿大学医学部奈良病院 腫瘍内科

特別講演 (19:15～20:15)
『頭頸部癌治療の最新知見に基づく最適な治療選択』

演者
岡野 晋 先生
国立がん研究センター東病院 頭頸部内科 医員
開会の辞：桐田 志昭 先生
奈良県立医科大学 口腔外科学教室 教授

ERBITUX
MERCK



2018年12月7日、かしはら万葉ホールに於いて第6回Head and Neck Cancer Conferenceが開催されました。当科からは秋岡宏志医員が口演発表を行いました。特別公演では国立がん研究センター東病院 頭頸部内科の岡野 晋先生より、頭頸部癌治療における最先端の知見に基づく治療戦略についてお話いただきました。

新たな治療薬や治療法の開発が日進月歩で進む中、このような会で情報を交換していくことで、当科の日常診療でも最新の動向を反映した治療法を提供出来るよう努めていきます。



2018/12/15 13:31



こんにちは耳鼻咽喉・頭頸部外科の北原仮面です。今週から新学年のポリクリ総括となりました。学生さんたちは、はじめての実践的な病院実習で新鮮な気持ちで臨んで頂きました。受け持ちの患者さんに関する疾患についてグループで共有できたことでしょう。私たちも初心を忘れずに診療・教育・研究に精進して参ります！皆さま、良い週末を！



2018/12/21 22:50





本日B病棟8階(耳鼻咽喉科・総合診療科・血液内科)の合同忘年会が開催されました。

北原教授が東京での会議が入り不在となってしまいましたが、例年通り医局員、ST、秘書、受付の方など多く関係者にご参加いただきました。

今年も一年多くの方々に支えていただきながら前にすすむことができました。来年もどうぞよろしくお願いたします。